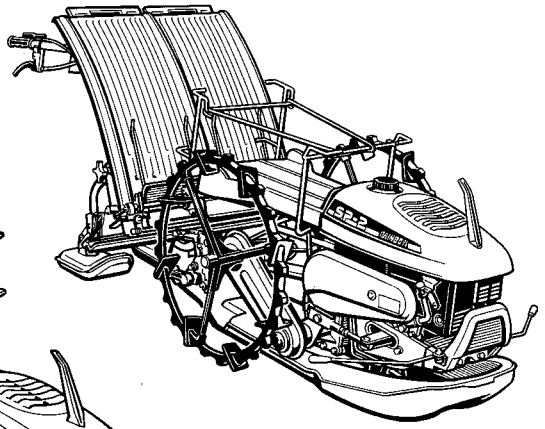
クボタ田植機

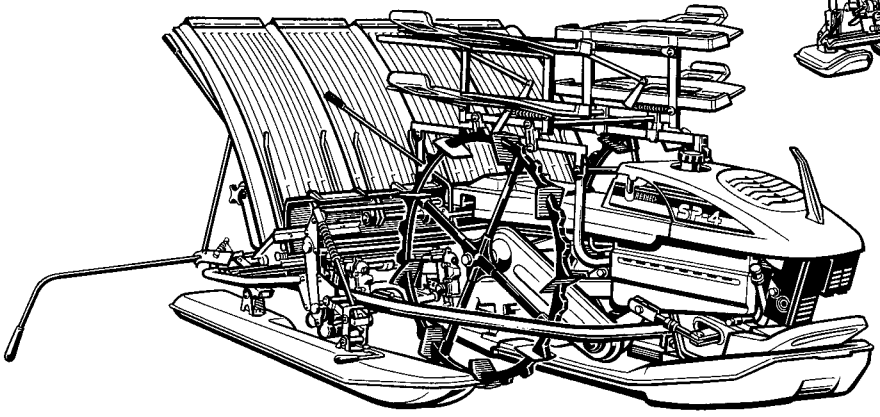
取扱説明書

RAINBOW

SP-2 4



P-2469



P-2470

安全宣言

安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

専　門　用　語

主クラッチレバー	エンジンからの動力伝達を「入」「切」するレバーです。
油圧レバー	機体の「上昇」「下降」「固定」及び植付け部の作動・停止を操作するレバーです。
操向クラッチレバー	機体を旋回させるときに旋回したい側のレバーを握ります。（植付けクラッチと連動しています）
主変速レバー	「移動」「植付」「中立」「後進」に変速するためのレバーです。
植付けSPレバー	油圧レバー「下降」，主クラッチレバー「入」の状態でこのレバーを「押す」と植付け部が作動します。
スロットルレバー	エンジンの回転を調整します。
マーカ【SP-4】	植付け作業中に隣接条間を合わすための目標となる線を引くための部分です。
ローリングレバー【SP-4】	走行時，機体が傾いている場合にこのレバーを操作して水平に戻します。
フロート	ほ場表面に浮き，機体を支える部分です。
ナエキーパ	苗こぼれによるバラケ・浮苗を防止するための金具です。
しゅう動板ガード【SP-4】	植付け部のしゅう動板があぜなどに当たり，変形するのを防止するパイプです。
安全クラッチ	植付け爪に障害物が詰まったとき，動力伝達ギヤーの破損を防止するために，植付け部の動力を断つ装置です。
ボンネット	機体前部にあるエンジンを覆っている樹脂のカバーです。

はじめに

このたびは，クボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。この取扱説明書は，製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買い上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためにこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

PC200-9151-2

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

⚠ **警　告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目　次

安全に作業するために…… ⚠-1

サービスと保証について…… 1

各部の名称と装置の取扱い…… 2

各部の名称…… 2
装置の取扱い…… 3
主クラッチレバー…… 4
油圧レバー(機体上下)…… 4
操向クラッチレバー(植付けクラッチ連動式)… 4
エンジンスイッチ…… 4
主変速レバー…… 4
植付けSPレバー…… 4
SPロックノブ…… 4
スロットルレバー…… 4
マーカ操作レバー【SP-4】…… 5
ローリングロックレバー【SP-2HD】…… 5
油圧感度調節…… 5
予備苗のせ台…… 6
変速ストッパ…… 6
ハンドル高さの調節…… 6
ランプアッシ【オプション部品】…… 6
取扱い(作業)のポイント…… 7
植付け作業の手順…… 7
旋回のしかた…… 7
スライディングターンについて…… 7

作業前の点検について…… 8

始業前の給油と注油…… 8
グリース…… 9
オイル…… 9

上手な運転のしかた…… 11

エンジン始動と停止…… 11
始動のしかた…… 11
停止のしかた…… 12
ならし運転…… 12
移動走行のしかた…… 12
発進のしかた…… 12
停車のしかた…… 13
トラックなどへの積み込み・積降ろし… 13
積込み・積降ろしのしかた…… 13
ほ場への出入り…… 14
ほ場への出入りあぜごえのしかた…… 14

上手な植付けのしかた…… 15

ほ場条件…… 15
苗条件…… 16
田植作業前の準備…… 17
株数の決定と調節…… 17
苗の使用量…… 17
横送り量の調節…… 18
車輪深さの調節…… 19
植付け作業のしかた…… 20
植付け作業の順序と方法…… 20
ローリング機構【HD仕様】…… 20
安全クラッチ…… 20
苗の補給…… 21
枕地のとり方…… 21
旋回のしかたとマーカの使い方…… 21
あぜぎわの植付け…… 22
植付け作業中の調節…… 23
苗ステー…… 25
苗ガイドの取外し方…… 25
ピタリックスアームの取外し方…… 26
整地板の調節【SP-4】…… 26
植付けクラッチ連動解除の方法…… 26
バランスウエイト…… 27

田植機の簡単な手入れと処置…… 28

各部の点検と交換…… 28
点検・注油・調整一覧表…… 28
ボンネットの開けかた…… 29
作業シーズン前後のメンテナス…… 29
スパークプラグのすきま…… 29
オイルの補給…… 29
各部の調整…… 30
主クラッチの調整…… 30
SPクラッチの調整…… 30
植付けクラッチの調整…… 30
操向クラッチの調整…… 31
油圧ワイヤの調整…… 31
マーカワイヤの調整【SP-4】…… 31
ローリングの調整…… 32
あぜぎわワイヤの調整【SP-4D】…… 32
毎日作業前…… 33
マフラ部の清掃…… 33
20時間目…… 33
エンジンオイルの点検…… 33

50時間毎 …… 33
エンジンオイルの交換 …… 33
エアークリーナエレメントの掃除 …… 33
ミッションオイルの交換 …… 33
100時間毎 …… 34
燃料フィルタポットの掃除 …… 34
2年毎 …… 34
燃料パイプの点検 …… 34
都度の整備 …… 34
分解時にグリース補給 …… 34
あぜぎわ調節レバーの調整【SP-2D】 …… 34
植付け爪の交換 …… 35

長期格納時の手入れ …… 36
使用後の手入れ …… 36
長期格納時 …… 36

田植機の不調と処置 …… 37

付　表 …… 40
主要諸元 …… 40
主な消耗部品一覧表 …… 41
付属部品 …… 41
オプション部品 …… 42
クボタ純正オイル …… 42

⚠安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警 告・⚠注 意・重 要・補 足としてそのつど取上げております。

1．安全作業をするために次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書および機械の警告・注意ラベルをよく読み理解してください。

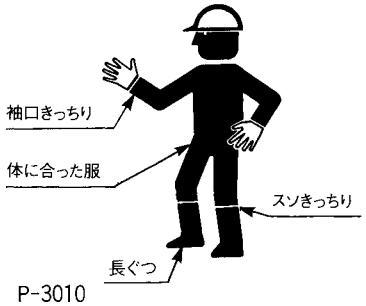
- 警告・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損・紛失したときは発注して再度貼付けてください。
- 正しい運転・作業法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性を損ったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。

M-6215

作業に合った服装及び健康状態

■作業に合ったキチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボン，上着などは回転部にまきこまれやすく危険です。

- 素足での作業は絶対にしないでください。
  安全な長ぐつなどを着用してください。
- 飲酒，過労などの作業は危険ですのでしないでください。

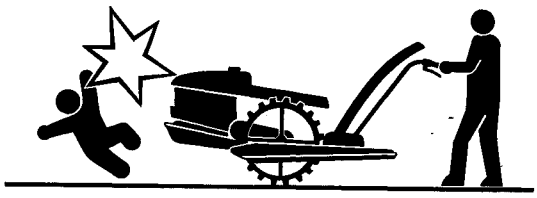


P-3010

M-6216

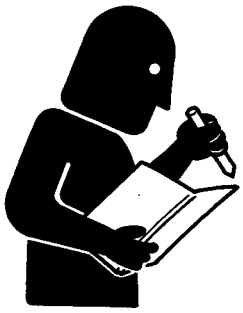
子供に注意

■点検・調整時および機械の移動時は，機械に子供を近づけないでください。いきなり駆動部にさわったりするなど，傷害事故の原因になります。

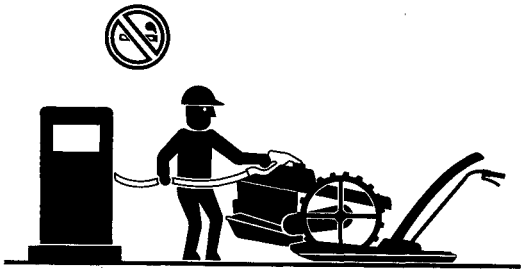


⚠安全に作業するために

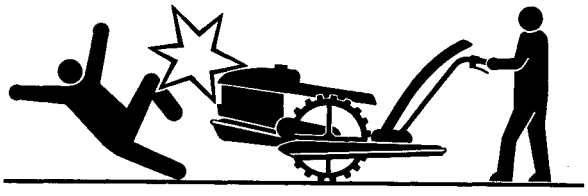
使用前の準備・点検



■使用前には 8 ページの点検項目の点検を実施してください。
異常があれば直してから運転してください。
■燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，各クラッチを切り，エンジンを止めてから行なってください。
- 燃料の補給は，エンジンを止め，エンジンが冷えてから行なってください。火気厳禁です。
- 点検・調整などで取外した部品は，必ず元の位置に取付けてから作業してください。
- 点検・調整などのときは，平坦な場所で機体を下げた状態にして作業してください。

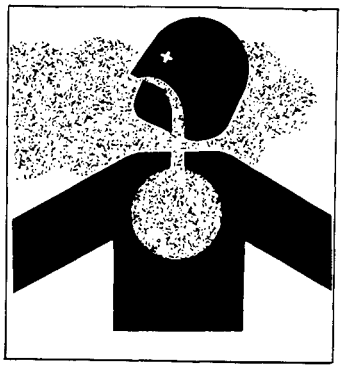


エンジンの始動



■機械を動かす場合は周囲の安全に気を付けてください。
- エンジンを始動するときは，各クラッチを「切」にし，変速を「中立」にして行なってください。
- スタータハンドルを引張るときは，手が人や物に当たらないよう注意してください。

■エンジンの始動や機械の発進のときは，周囲の安全を十分に確認し合図をして，人を機械に近づけないでください。
- 屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気が十分に入るようにしてください。



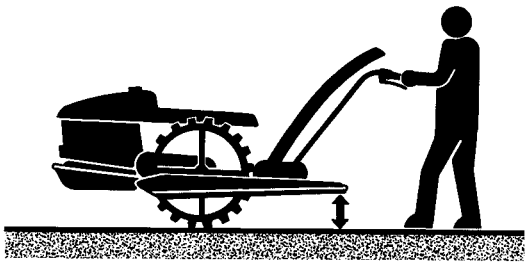
走行運転

■この機械は，一般道路は走れません。

- 一般道路はトラックに積むなど別の運送方法で移動してください。
- フロートと地面の間に十分な間隔をとり，機械が地面と接触しないよう走行してください。
- 初めて運転される方は，操作に慣れるまで低速で運転してください。
- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないでください。荷物は，めんどうでも，別のトラックなどで運搬してください。

■わき見･手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。

- マーカは必ず収納し，苗のせ台は機体中央の位置にして走行してください。

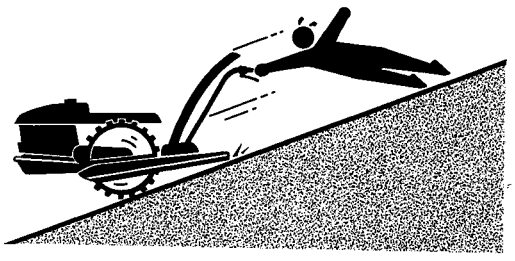


坂道走行

■坂道では絶対に操向クラッチレバーを操作しないでください。
急旋回して大変危険です。

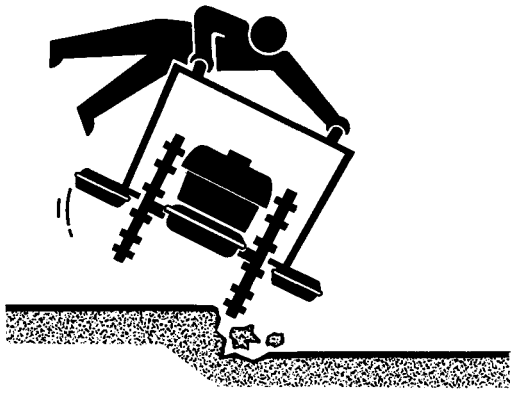
■坂道では絶対に主クラッチレバーを操作しないでください。
動力伝達が切れ，機械が暴走し，大事故につながります。

- 坂道での駐・停車は行わないでください。
  やむをえず駐・停車するときは，車輪に車止めをしてください。



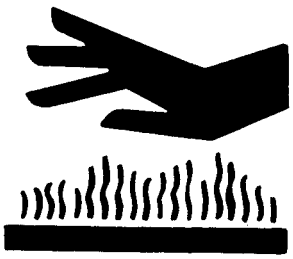
⚠安全に作業するために

農道の移動



■機体を十分上げて，ゆっくり走行してください。
■路肩くずれに注意してください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では、速度をおとして慎重に走行してください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- マーカを折りたたみ苗のせ台は機体中央位置で走行してください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。

ほ場での作業

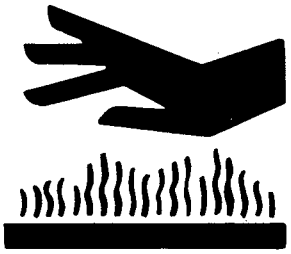


■異常に気付いたらすぐに各クラッチを切り，エンジンを止めてください。
■回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
■植付け爪にはさまった小石などを除くときは，必ず主クラッチを切り，エンジンを止めてから行なってください。
- スタータハンドルを引くときは，片手で機械を支えてバランスを取ってください。
- 植付け作業時は，ハンドルを両手で握り，決して片手運転はしないでください。
- あぜ際で旋回するときは，あぜの周囲の人や物に十分注意してください。
- 次のような場合は植付部を停止させてください。
  ❶ほ場内外へ移動するとき
  ❷旋回するとき
  ❸苗のせ台に苗を補給するとき
  （このときは主クラッチも切ってください。）
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近付けたりしないでください。
- ほ場への出入りの場合は，機体のバランスとスピードに十分注意して，必要な場合にはアユミ板を使ってください。
  また，途中で主クラッチを切ったり，操向クラッチを操作しないでください。転倒・転落事故のおそれがあります。

機械から離れるとき及び走行・作業途中の駐車・点検

■作業時，機械から離れたり，点検するときは，各クラッチを切ってエンジンを止めてください。

●やけどのおそれがあるのでエンジン・マフラ・配気管などの高温部に触れないよう注意してください。



トラックなどへの積込み・積降ろし

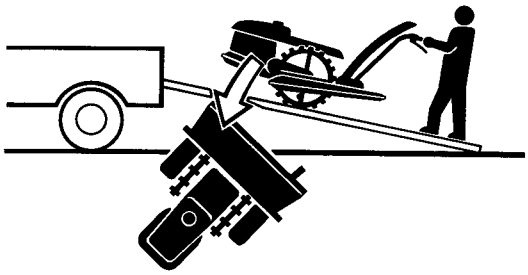
■積込み・積降ろしは平坦な場所で行ない，必ず前進で積込み，後進で積降ろしてください。

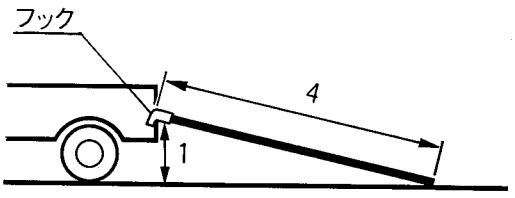
●積込み又は積降ろしを開始する前に，トラックのサイドブレーキがかかっているかを確認してください。

■アユミ板は十分に強く滑り止めがあり，トラックの荷台高さ「1」に対し，アユミ長さ「4」以上のものを使用してください。

●アユミ板の途中では，絶対に主クラッチを切らないでください。
機体が急降下し，大変危険です。

●アユミ板の途中では，絶対に操向クラッチを操作しないでください。
機体が急旋回し，転倒して大事故につながります。



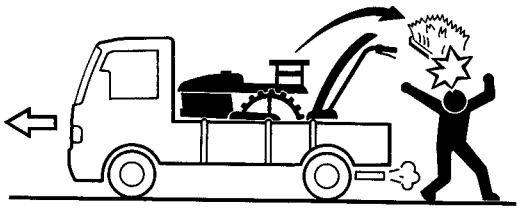


⚠安全に作業するために

トラックなどでの運搬

■トラックの荷台上では，機体を下げた状態で運搬してください。

- 運搬するときは，必ず機体をロープで固定してください。
- 搬送中は，不必要な急発進・急停止・急ハンドルはしないでください。
- 苗のせ台・予備苗台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。



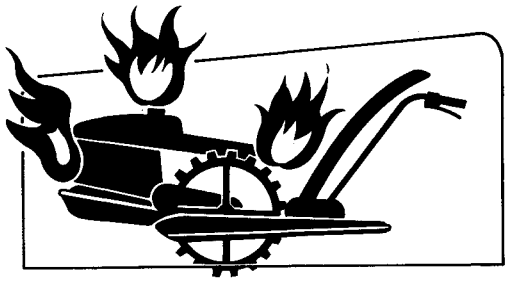
使用後の手入れ，その他

■点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行なってください。

- 格納するときは，平たんな場所で機体を下げた状態で置いてください。
- シートなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分が十分冷えてからにしてください。火災の原因になります。

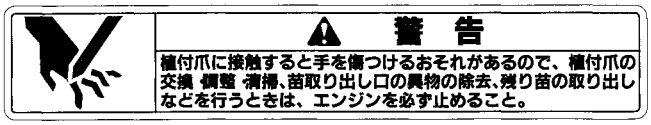
■機械の改造は絶対にしないでください。故障や事故の原因になり大変危険です。

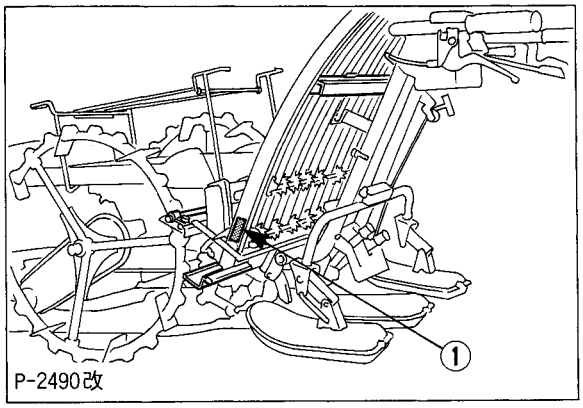
- 田植機を人に貸すときは，取扱説明書を読んでいただくと共に，安全な作業ができるよう十分に指導してあげてください。
- 夜間は暗くて危険なので作業しないでください。



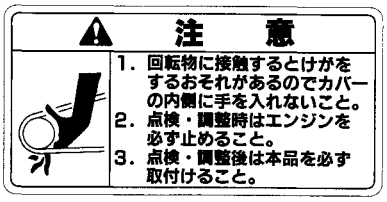
2．⚠表示ラベルと貼付位置

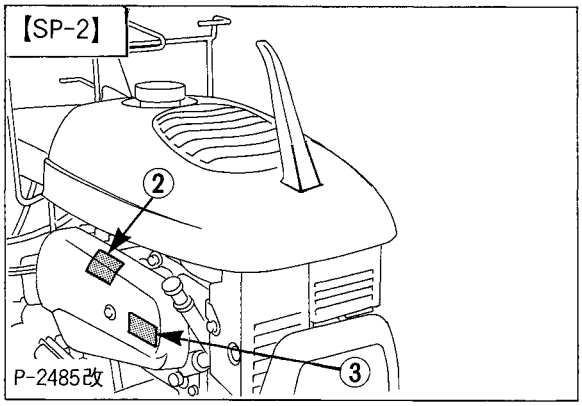
①品番　PA401-8943-1



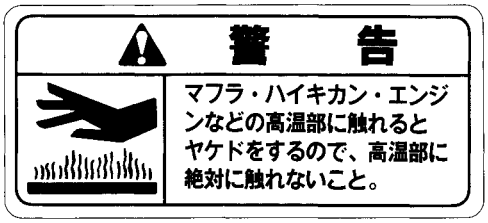


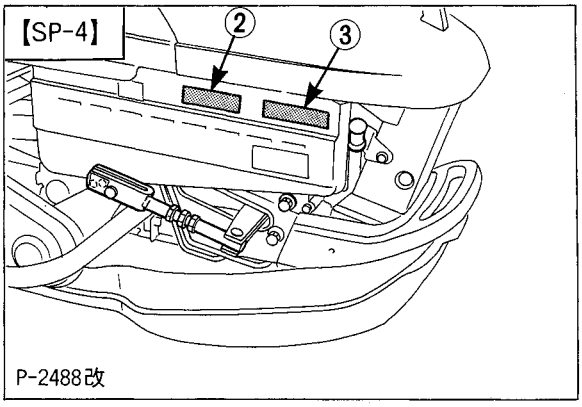
②品番　PC200-8981-1





③品番　52320-3159-1



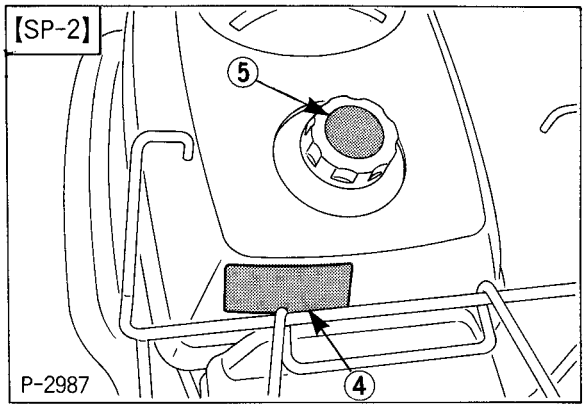


⚠安全に作業するために

④品番　PC200-8911-1

⚠注意
中に回転物・高温部がありケガをするおそれがあるので、点検・調整などでボンネットを取外す時は、エンジンを必ず止めること。点検・調整後はボンネットを必ず取付けること。

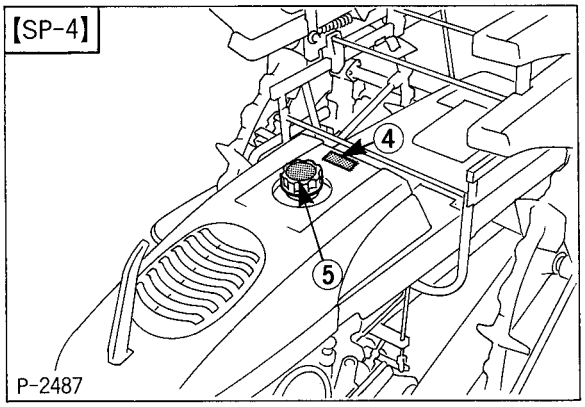
【SP-2】



P-2987

⑤品番　50080-1689-2

【SP-4】

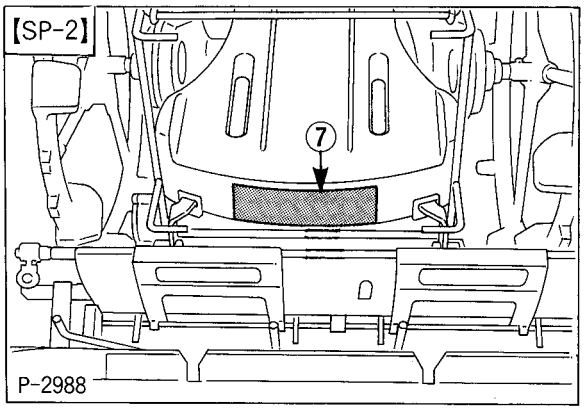


P-2487

⑥品番　PC400-8944-1

⚠注意
移動走行および搬送のときには必ず左右マーカを収納すること。

【SP-2】

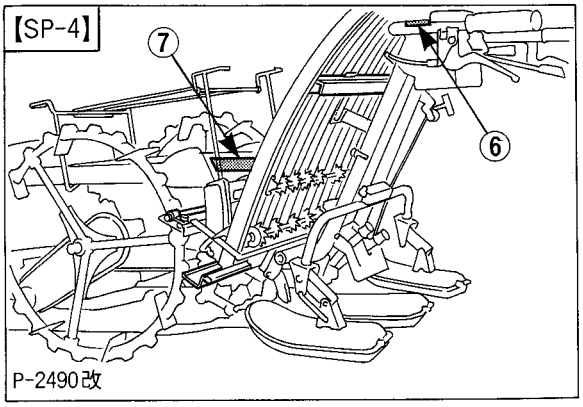


P-2988

⑦品番　PC200-8982-1

⚠注意
1. 安全作業のため、取扱説明書をよく読むこと。
2. ガス中毒防止のため、屋内では換気すること。
3. この機械は公道走行はできないため、移動はトラックなどにのせて運搬のこと。
4. けが防止のため、機械から離れるとき、および各部の点検・調整などのときは各クラッチを切り、エンジンを必ず止めること。
5. 夜間は暗くて危険なので、作業しないこと。
6. 転落・転倒事故防止のため、車への積み降ろし、あぜ越えなど急な傾斜地でのクラッチ操作は絶対にしないこと。また、傾斜地や不安定な場所での駐・停車はしないこと。
7. 安全クラッチが作動（ガツガツという大きな異音）したら、すぐに主クラッチを切り、エンジンを止めて、植付爪先端の障害物を取り除くこと。

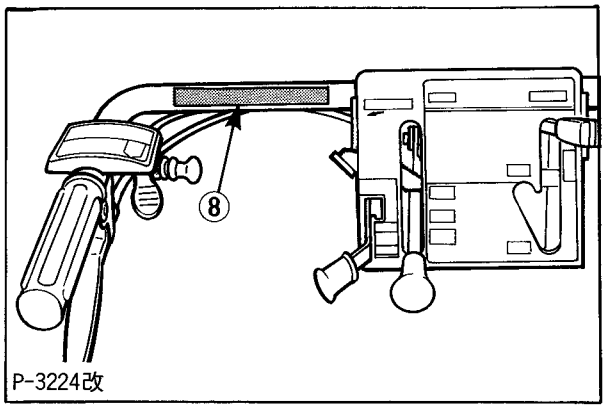
【SP-4】



P-2490改

⑧品番　41332-8919-2

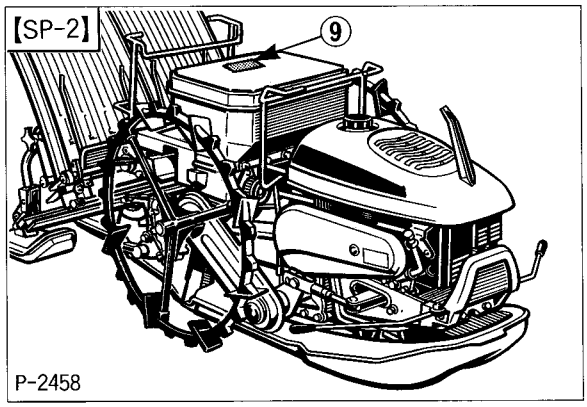
⚠注意
1. エンジンを始動するときは、各クラッチを切り、変速を中立にして行うこと。
2. 機体停止状態で植付爪を回すときは、必ず変速を中立にして油圧（植付）レバーを入にして操作すること。
3. 油圧を固定するときは、油圧（植付）レバーを固定にすること。



P-3224改

⑨品番　PA401-8983-1【F(施肥)仕様】

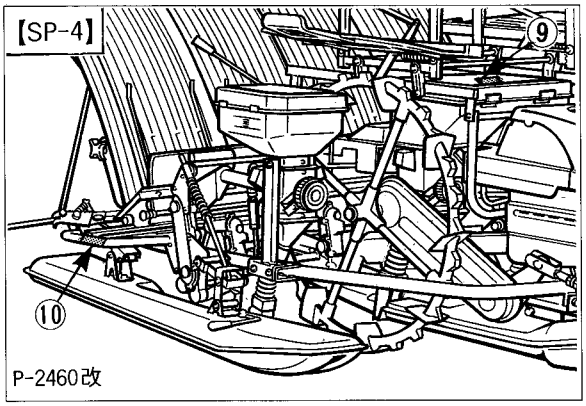
⚠ 注 意
駆動部に接触すると手を傷つけるおそれがあるため施肥機の点検・肥料の排出・苗の取り出しのときは必ずエンジンを止めること。



P-2458

⑩品番　4113-8947-2【F(施肥)仕様】

重要
故障・破損の原因になるので、このパイプにロープをかけないこと。



P-2460改

3．⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もし，ラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

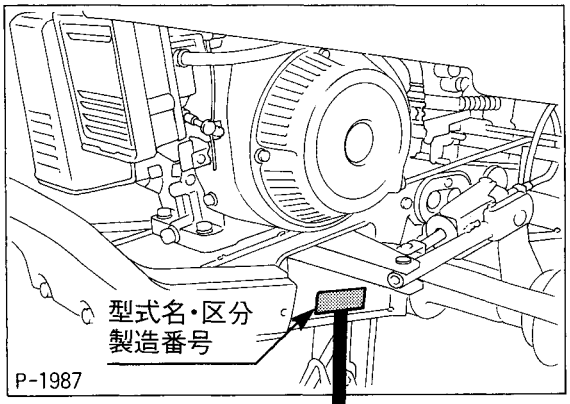
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1)型式名・区分と製造番号
　　(2)搭載機関(エンジン)の型式名と機関番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・ＪＡ農協・弊社支店または㈱クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

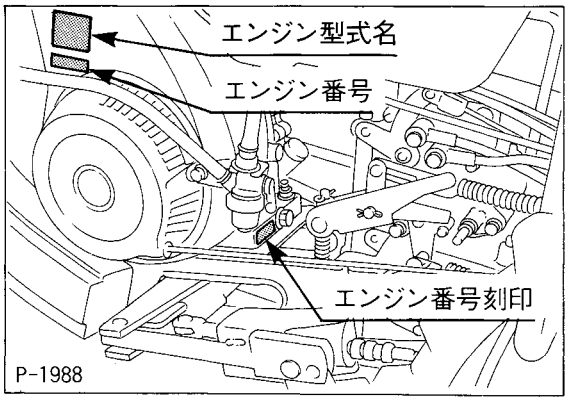
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆安全鑑定番号

クボタSP-2 …… 18025
クボタSP-4 …… 18026

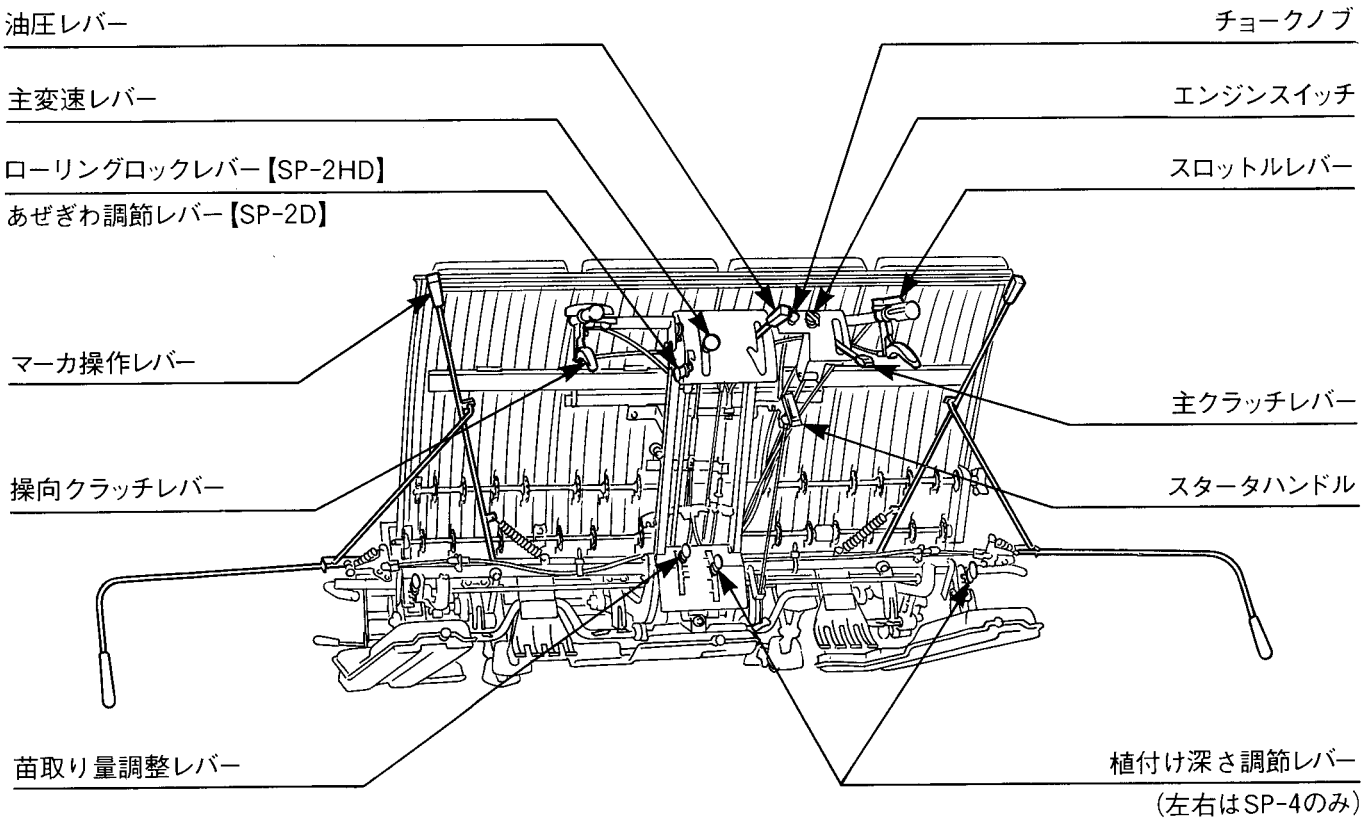


農業機械の種類	田植機(土付き苗用)
型　　式	クボタ
区　　分	
条　　数	
製造番号	
製造会社	株式会社クボタ

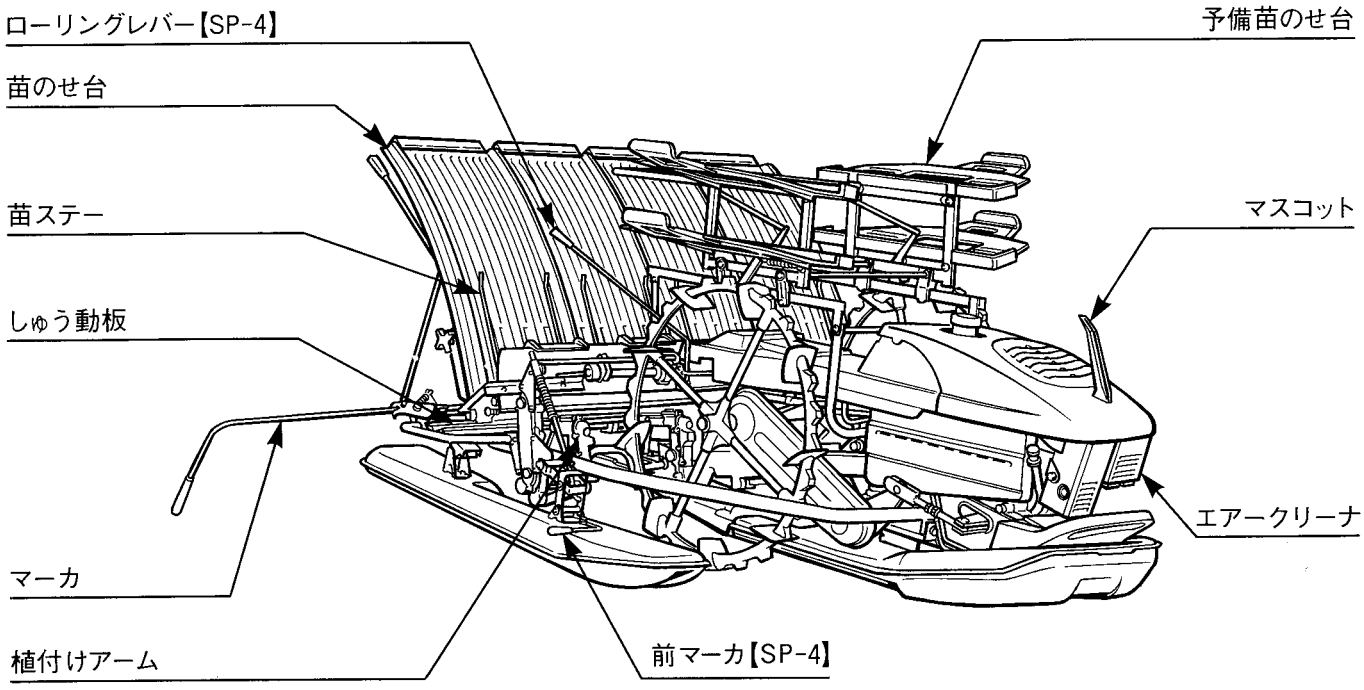


各部の名称と装置の取扱い

各部の名称

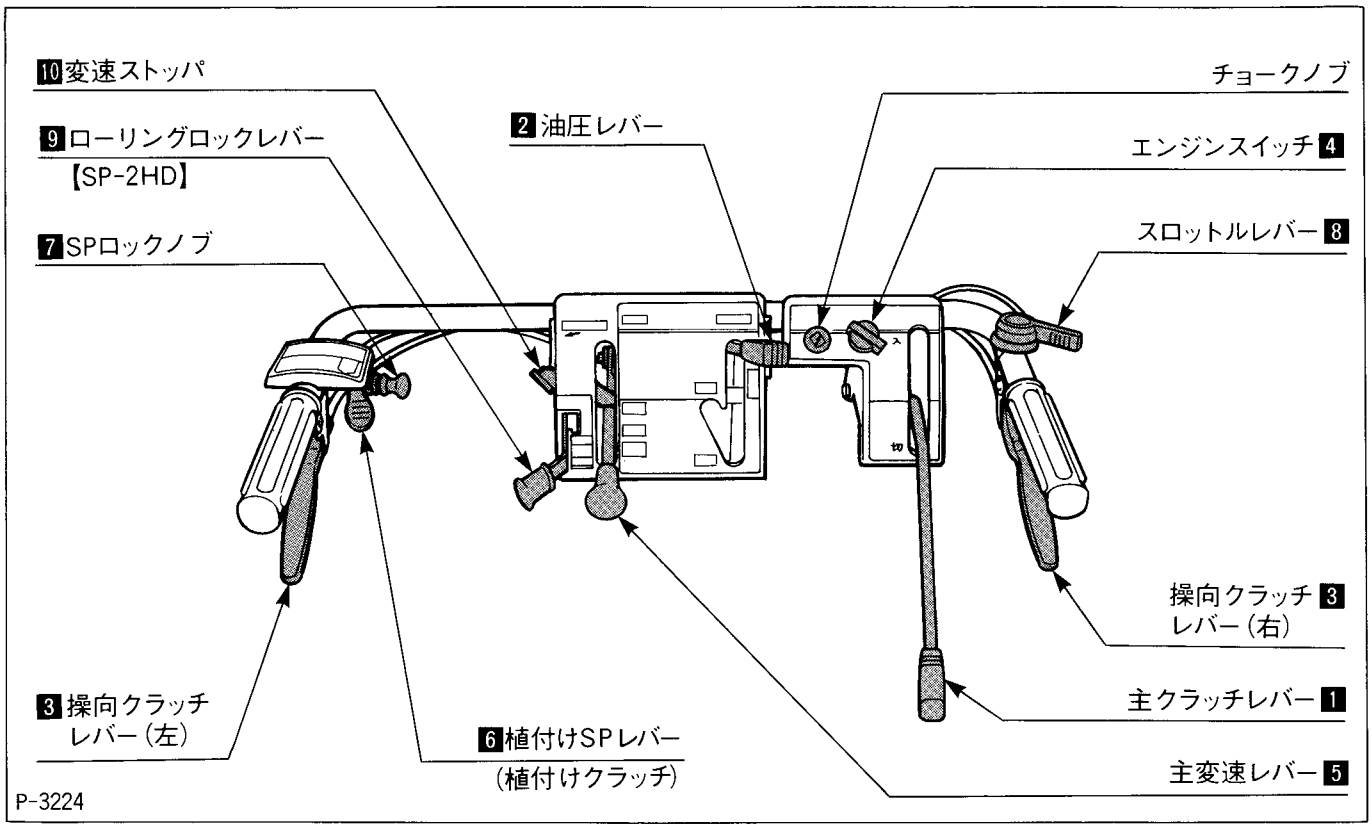


P-2472



P-2471

装置の取扱い



	参照ページ
1 主クラッチレバー	4
2 油圧レバー	4
3 操向クラッチレバー	4
4 エンジンスイッチ	4
5 主変速レバー	4
6 植付けSPレバー	4
7 SPロックノブ	4
8 スロットルレバー	4
9 ローリングロックレバー	5
10 変速ストッパ	6

1主クラッチレバー

「入」……エンジンからの動力が伝達され走行します。
「切」……エンジンからの動力が切れ，走行しなくなります。また，植付け部の駆動も停止します。

2油圧レバー(機体上下)

「下降」……路上では機体は下降し，ほ場では自動的に車輪が上下します。
「固定」……植付け部は停止し，機体は固定されます。
「上昇」……植付け部は停止し，機体は上昇します。

3操向クラッチレバー (植付けクラッチ連動式)

旋回したい方のレバーを握ると，旋回と同時に植付けクラッチが切れて，植付け部が停止します。

補　足

＊植付けクラッチとの連動は解除することもできます。
(解除方法は26ページ参照)

4エンジンスイッチ

「OFF」……エンジンが停止します。
「ON」……スタータハンドルを引けば，エンジンが始動します。

5主変速レバー

「移動」……移動走行用の速度です。
「植付」……植付け作業用の速度です。
「中立」……中立
「後進」……バックします。

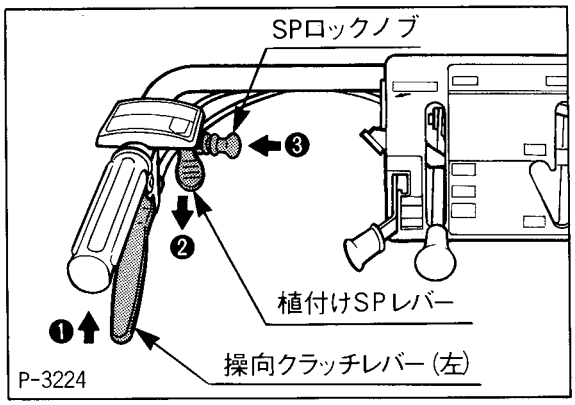
6植付けSPレバー

油圧レバー「下降」，主クラッチレバー「入」の状態で植付けSPレバーを「押す」と，植付け部が作動します。

7SPロックノブ

通常は操向クラッチレバーを握ると，同時に植付けクラッチが切れます。SPロックノブを使用すると，操向クラッチレバーを操作しても一回ごとにSPクラッチをセットする必要がなくなります。
(変形田などで，操向クラッチレバーを握って方向修正する場合に便利です。)

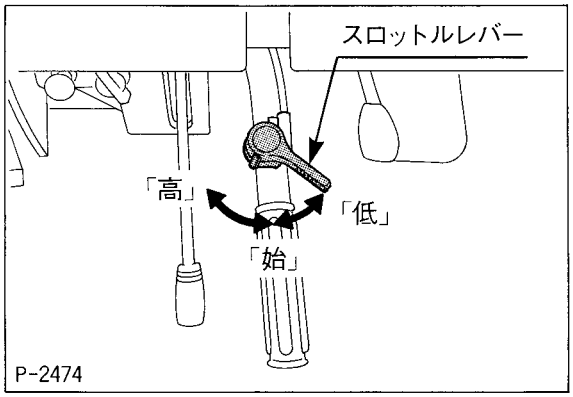
❶操向クラッチレバー(左)を握り，
❷植付けSPレバーを押しながら，
❸SPロックノブを押し込み，
❹植付けSPレバーを離します。



＊再度植付けSPレバーを押すとロックが解除します。

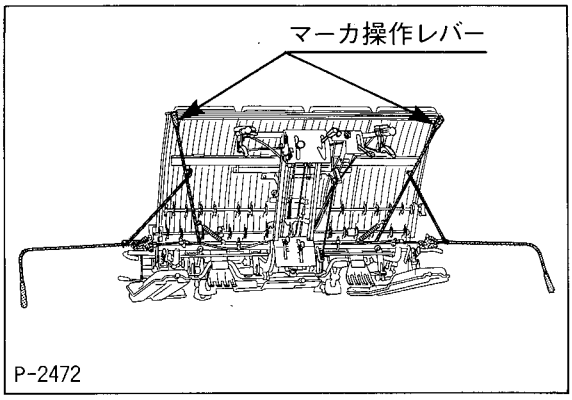
8スロットルレバー

エンジン回転を調節します。

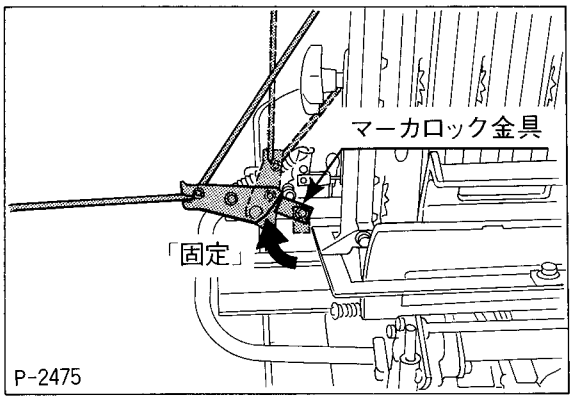


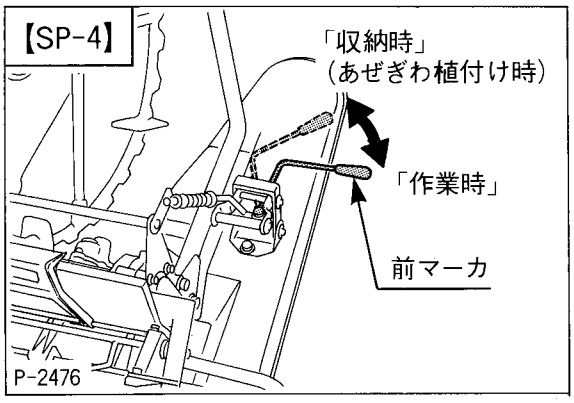
■マーカ操作レバー【SP-4】

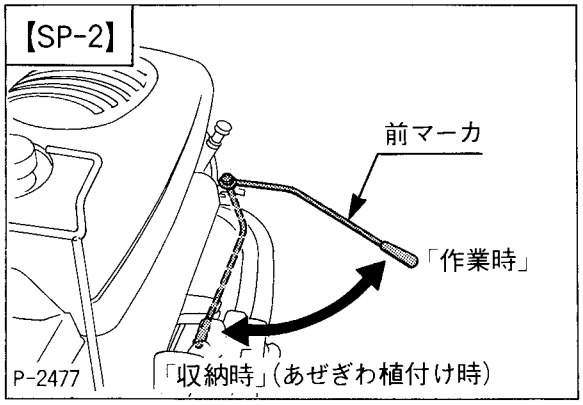
植付けクラッチが「入」のとき，マーカ操作レバーを外側に倒すとマーカが倒れます。植付けクラッチが「入」以外の位置では，マーカは自動的に収納されるので必ず「入」の位置で操作してください。



植付けクラッチが「切」の状態で，目印のマーカ線を引くこともできます。マーカ操作レバーでマーカを外側に倒したまま，マーカロック金具で固定してください。

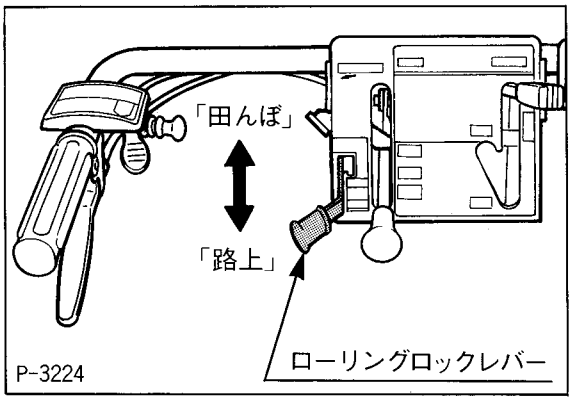






9 ローリングロックレバー【SP-2HD】

植付け作業時は，レバーを「田んぼ」で使用し，路上走行時は「路上」で使用してください。



■油圧感度調節

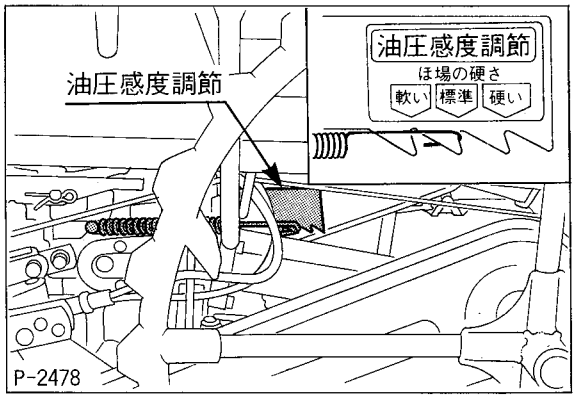
ほ場の状態に合せて，油圧感度調節のセット位置を選択してください。

「標準」……標準ほ場

「硬い」……＊耕うん，代かきが十分でないほ場

＊ほ場の表面が硬すぎるほ場

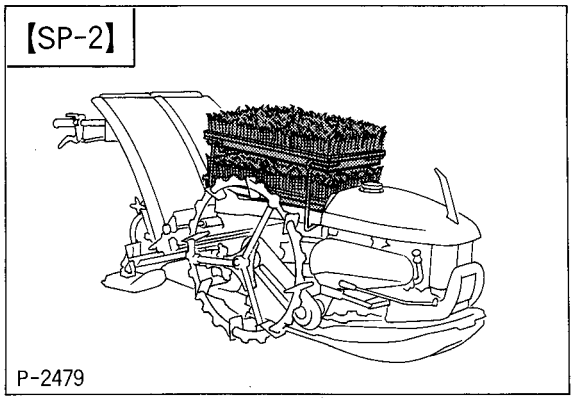
「軟い」……ほ場の表面が軟かすぎるほ場



■予備苗のせ台

長いほ場で作業するときは，途中で苗補給が便利なように，予備苗のせ台に苗を積んでいくことができます。

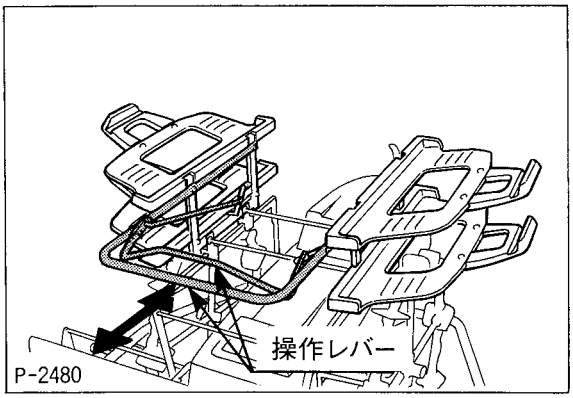
【SP-2】



【SP-4】

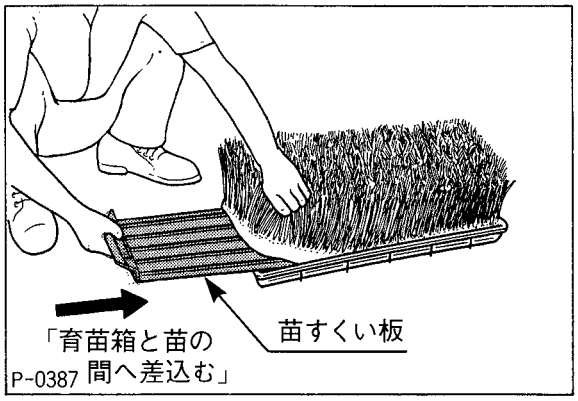
予備苗のせ台の苗を，苗のせ台に移す場合は，次の要領で行ないます。

❶操作レバーを握り予備苗のせ台を手前に引張ります。苗補給後，再び操作レバーを握り，予備苗のせ台を前方に押してください。



❷苗をのせる。苗すくい板に苗を移してのせると作業能率が上ります。

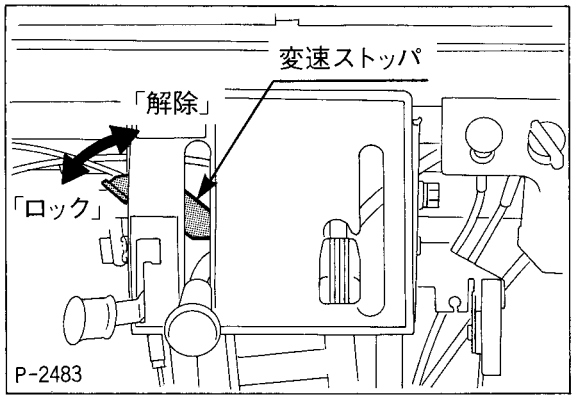
（苗すくい板はオプション部品になっておりますので必要な枚数を販売店でご購入ください）



⑩変速ストッパ

植付け作業時は，ストッパを「ロック」状態で使用し路上走行時など「移動」の場合は，ストッパを「解除」にして使用してください。

「ロック」位置では植付け作業中の変速が容易になります。

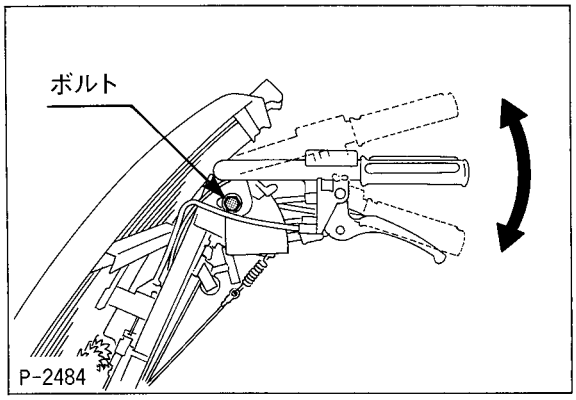


■ハンドル高さの調節

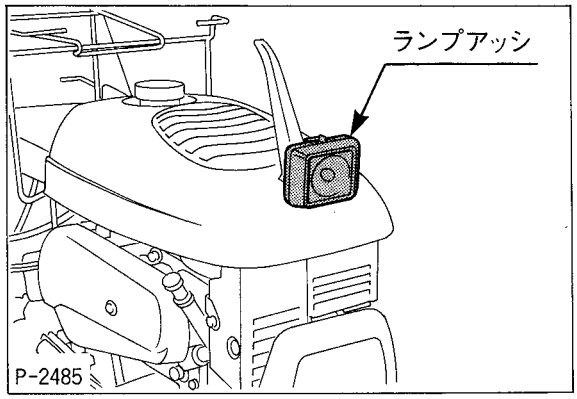
締付けボルトをゆるめ，左右のハンドルをいっしょに上下させ，使いやすい高さに調節し，ボルトを締付けて固定してください。

重　要

＊左右のハンドルは，同じ高さになるようにしてください。



■ランプアッシ【オプション部品】



取扱い(作業)のポイント

■植付け作業の手順

◆植付け準備

❶ほ場に入って変速レバーを「中立」にします。
❷SP-2HDの場合は，ローリングロックレバーを「田んぼ」にします。
❸油圧レバーを「下降」，主クラッチレバー「入」，植付けSPレバーを「押して」苗のせ台を端まで移動させ，縦送り(ホイル)作動直後に油圧レバーを「固定」にし，主クラッチレバーを「切」にします。
❹苗のせ台に苗をていねいにのせます。
❺植付け深さレバー，苗取り量調節レバーを希望の位置にセットします。

◆植付け

❻主変速レバーを「植付」位置にします。
❼油圧レバーを「下降」位置にします。
❽主クラッチレバーを「入」にすると，機械が動き始めます。
❾植付けSPレバーを「押す」と植付けが開始します。
❿SP-4の場合は，マーカを下ろします。

◆植付け停止

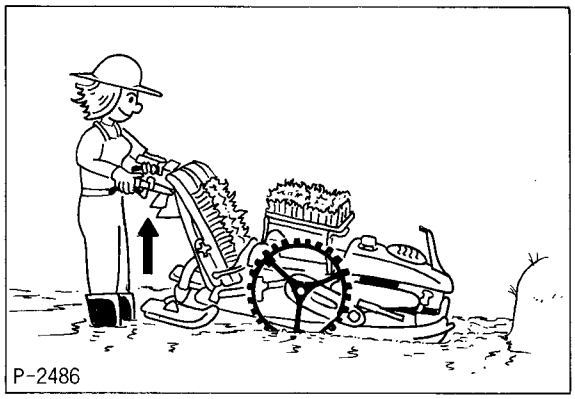
⓫植付けを止めるときは，油圧レバーを「固定」位置にするか，または操向クラッチレバーを握るか，いずれかで行ないます。

■旋回のしかた

❶(エンジン回転を下げて)操向クラッチレバーを握れば，車輪と同時に植付けクラッチが切れます。
＊SP-4の場合は，マーカも自動的に収納します。
❷操向クラッチレバーを握ったままハンドルを持上げると機体が浮き，そのまま旋回できます。(スライディングターン)
(油圧レバーを操作する必要はありません)
❸旋回後の植えはじめは，植付けSPレバーを「押す」だけで植付けクラッチが入ります。

■スライディングターンについて

(1)植付け作業中(旋回時)は，油圧レバーをさわることなく，旋回したい方の操向クラッチをレバーを握り，ハンドルを持上げると，フロート先端がすべりながら，楽に旋回できます。



(2)バック時は，主変速レバーを「後進」にし，油圧レバーで機体を「上昇」させてから，主クラッチレバーを「入」れてバックします。

重　要

＊柔らかいほ場や深いほ場などの条件では，機体を上昇させての旋回が必要な事があります。
＊モンローマチックを装備しないSP-4Dでは，条件によっては，スライディングターンができない場合もあります。

作業前の点検について

始業前の給油と注油

注　意

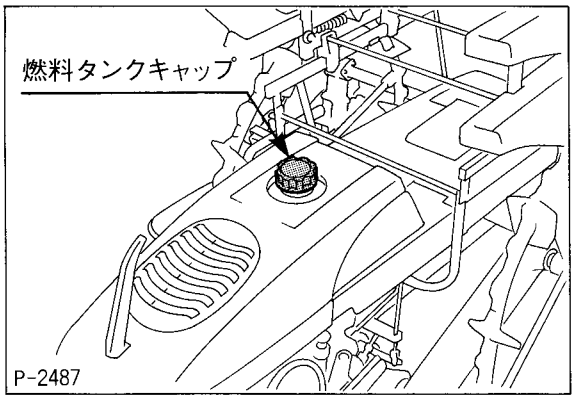
＊給油中エンジン停止。
＊給油中火気厳禁。（タバコを吸わないこと）
＊こぼれた燃料は完全にふき取る。
＊機体を最も低い位置にする。
＊機体を水平にして給油。

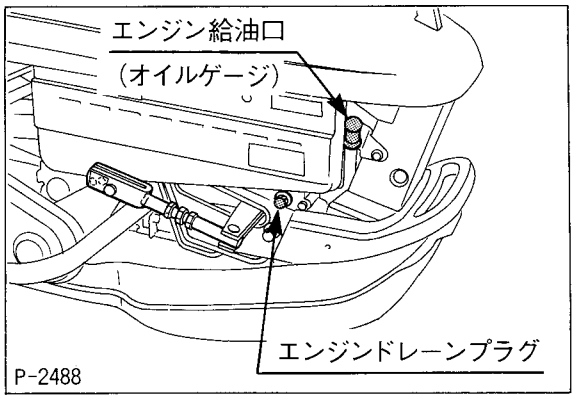
重　要

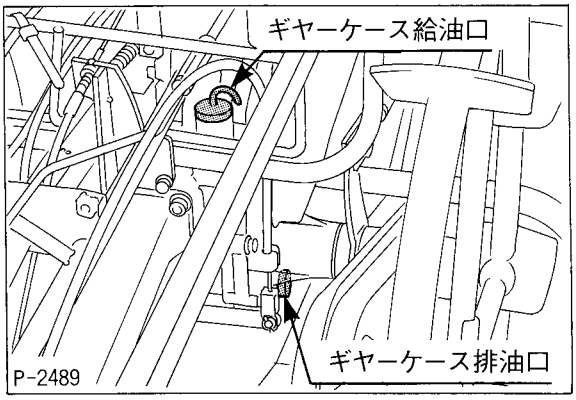
＊この田植機は，工場出荷時各部には給油していませんので，必ず使用前に給油してください。オイルを入れないままで運転しないでください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊燃料キャップが締まっているかを確認してください。
＊エンジンオイルの給油及び点検は，必ずエンジンを水平にして行なってください。
＊エンジンオイル給油の際は，付属のジョウゴを使えば楽に給油できます。

毎日エンジン始動前に，下表の箇所に給・注油してください。

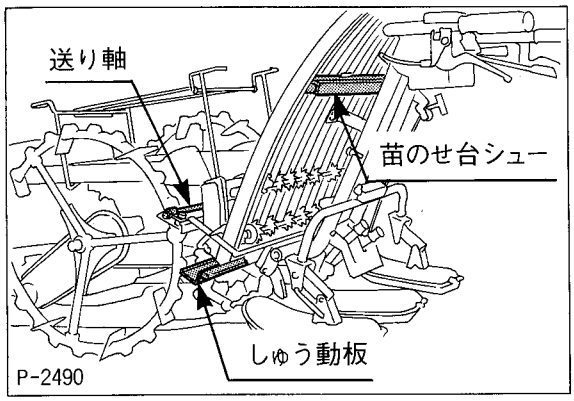
給　油　箇　所	種　類	給　油　量
燃料タンク	自動車用レギュラガソリン （無鉛）	約2.1ℓ（SP-2） 約2.7ℓ（SP-4） （4～5時間植付け可能）
エンジンクランクケース	クボタ純オイル，G30 （ガソリン・灯油エンジン用）	エンジンを水平にして オイルゲージの上限まで… 約0.45ℓ（SP-2） 約0.55ℓ（SP-4）
ギヤーケース	クボタ純オイル， スーパーUDT （ミッション用）	オイルゲージの上限まで… 約2.0ℓ
しゅう動板	グリース，又はクボタ純オイル，G30 （ガソリン・灯油エンジン用）	適　量
苗のせ台シュー		
送り軸		
主クラッチレバー支点及び連結部	クボタ純オイル，G30 （ガソリン・灯油エンジン用）	適　量
植付けクラッチ支点及び連結部		
変速レバー支点及び連結部		
油圧作動アーム支点		
フロート揺動支点【SP-4】		
ローリング支点【SP-4】		
フロート支点【SP-2】		
ローリングロックピン支点【SP-2HD】		
車輪調節連結部		
縦送り連結部		
センサロッド支点及び支点連結部		
操向クラッチレバー支点		
操向クラッチワイヤ及び連結部		
各ワイヤ及び各ワイヤ連結部		
予備苗のせ台ロックレバー支点【SP-4】		
マーカレバー支点【SP-4】		
アーム（あぜぎわ）支点【D仕様】		
施肥駆動部【施肥仕様】		


燃料タンクキャップ
P-2487

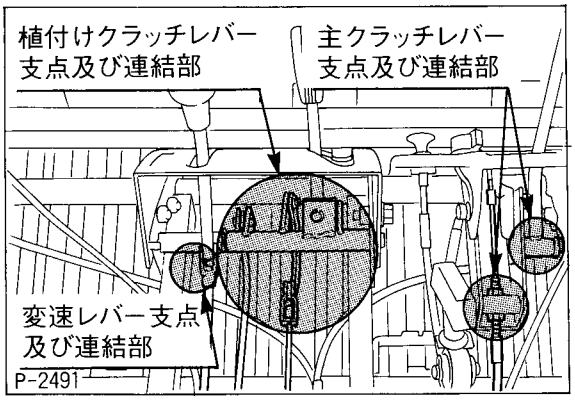

エンジン給油口
(オイルゲージ)
エンジンドレーンプラグ
P-2488

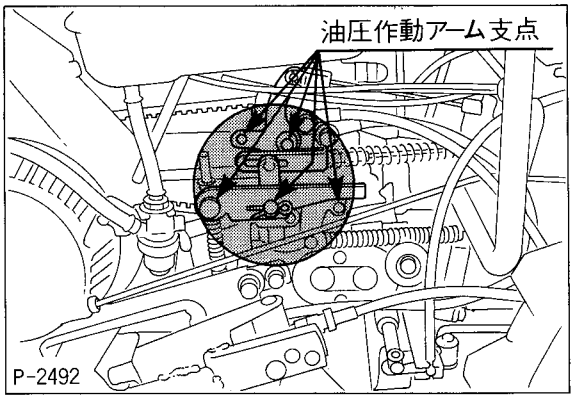

ギヤーケース給油口
ギヤーケース排油口
P-2489

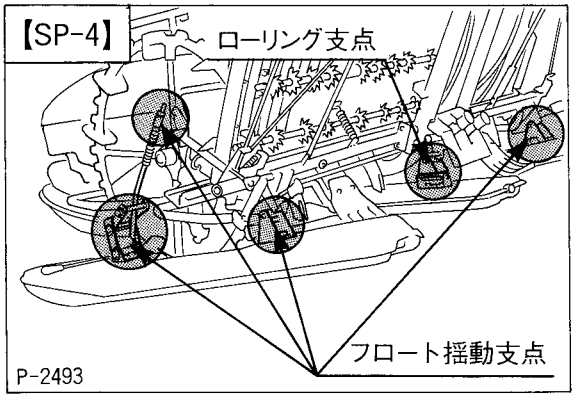
■グリース

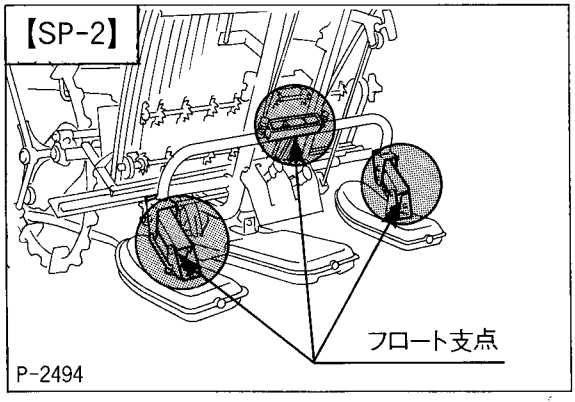

送り軸
苗のせ台シュー
しゅう動板
P-2490

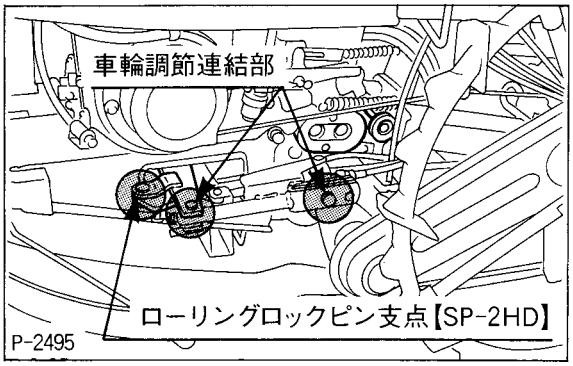
■オイル

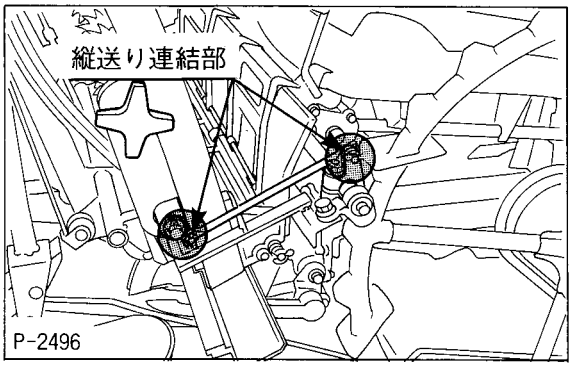

植付けクラッチレバー
支点及び連結部
主クラッチレバー
支点及び連結部
変速レバー支点
及び連結部
P-2491

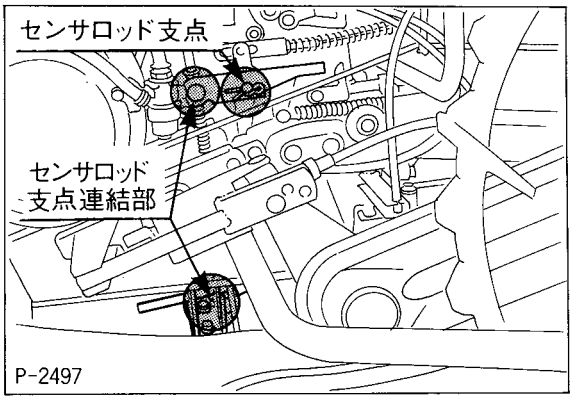

油圧作動アーム支点
P-2492

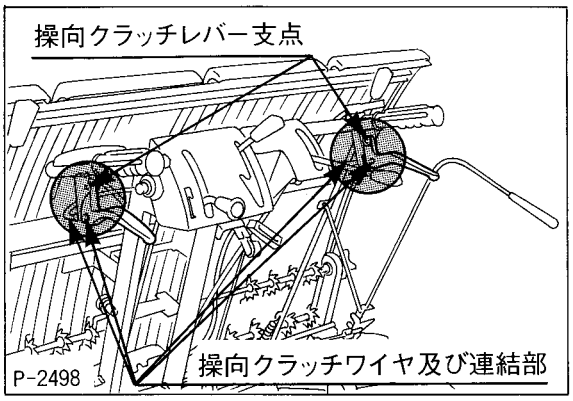

【SP-4】
ローリング支点
フロート揺動支点
P-2493

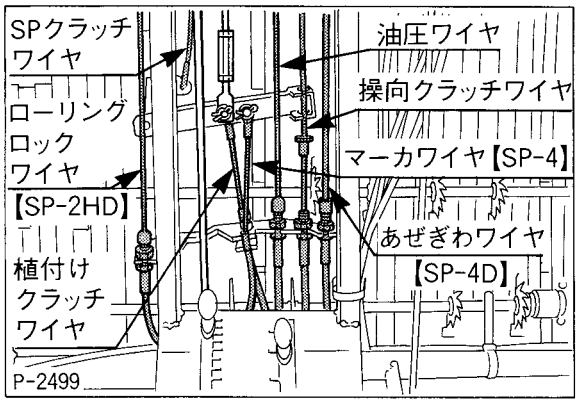

【SP-2】
フロート支点
P-2494

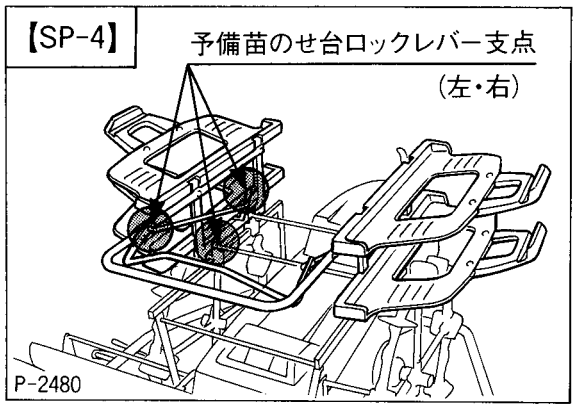

車輪調節連結部
ローリングロックピン支点【SP-2HD】
P-2495

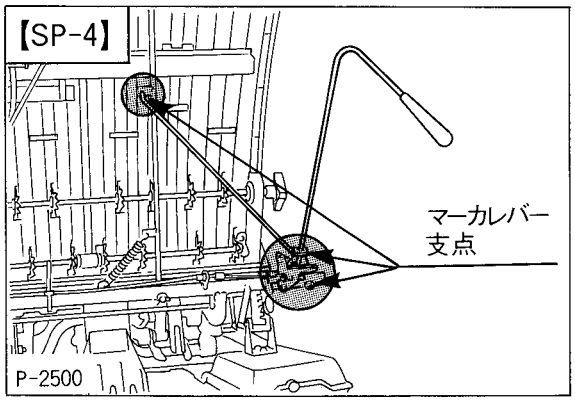

縦送り連結部
P-2496

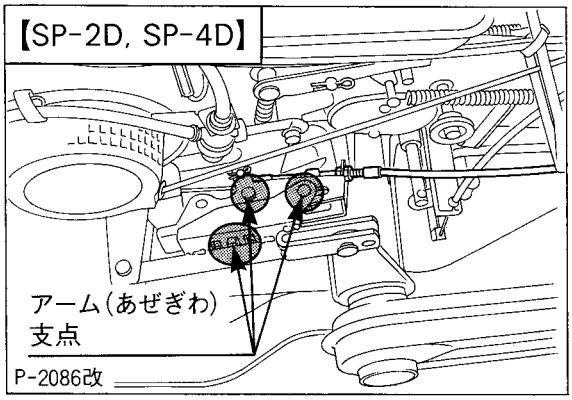

センサロッド支点
センサロッド
支点連結部
P-2497

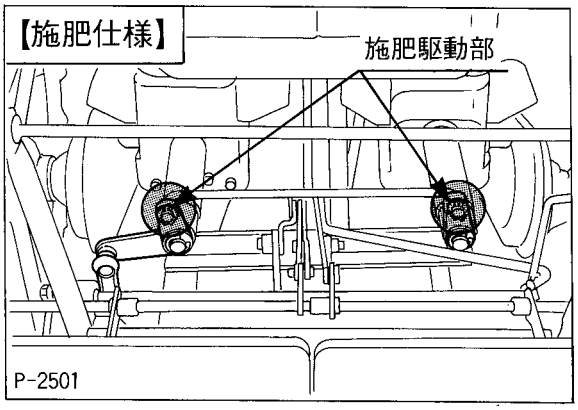

操向クラッチレバー支点
操向クラッチワイヤ及び連結部
P-2498


SPクラッチ
ワイヤ
ローリング
ロック
ワイヤ
【SP-2HD】
植付け
クラッチ
ワイヤ
油圧ワイヤ
操向クラッチワイヤ
マーカワイヤ【SP-4】
あぜぎわワイヤ
【SP-4D】
P-2499


【SP-4】
予備苗のせ台ロックレバー支点
(左・右)
P-2480


【SP-4】
マーカレバー
支点
P-2500


【SP-2D, SP-4D】
アーム(あぜぎわ)
支点
P-2086改


【施肥仕様】
施肥駆動部
P-2501

上手な運転のしかた

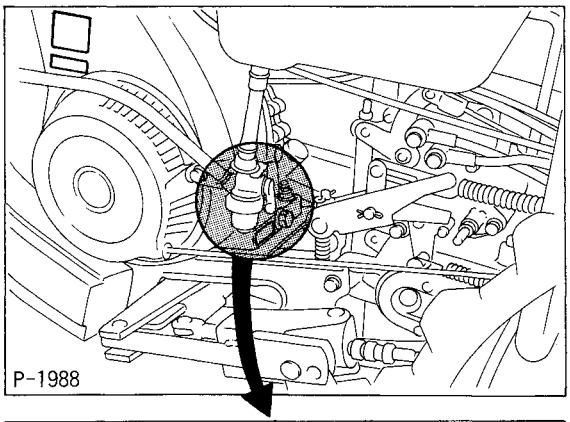
注　意

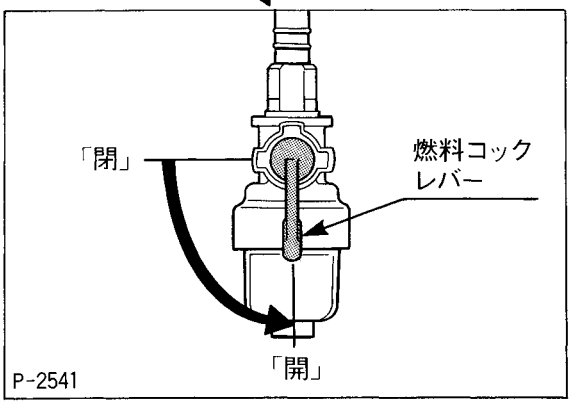
＊この取扱説明書前編の黄色のページ「安全に作業をするために」の内容を必ずお読みください。
＊田植機に貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため，換気の不十分な納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転位置で行なってください。
＊スタータハンドルを引張る前に，手が人や物に当たらないか周囲をよく確かめてください。
＊主変速レバーを「中立」，主クラッチレバーを「切」，油圧レバーを「固定」にしてからエンジンを始動してください。

エンジン始動と停止

■始動のしかた

❶燃料コックレバーを「開」にします。



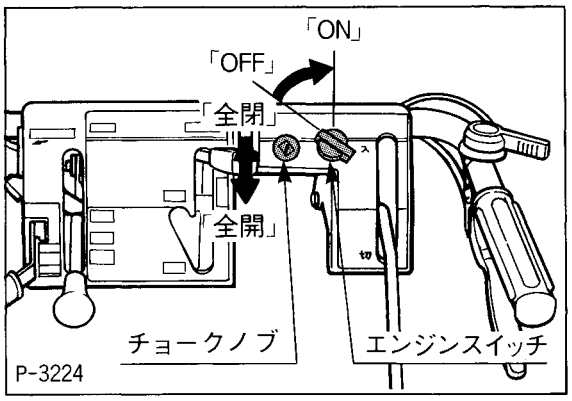


❷主変速レバーを「中立」位置にします。
❸主クラッチレバーを「切」にし，油圧レバーを「固定」にします。

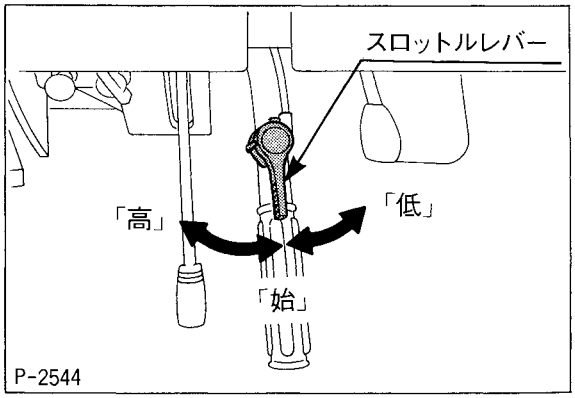
注　意

＊クラッチが入っていると，エンジンが始動すると同時に動き始め危険です。

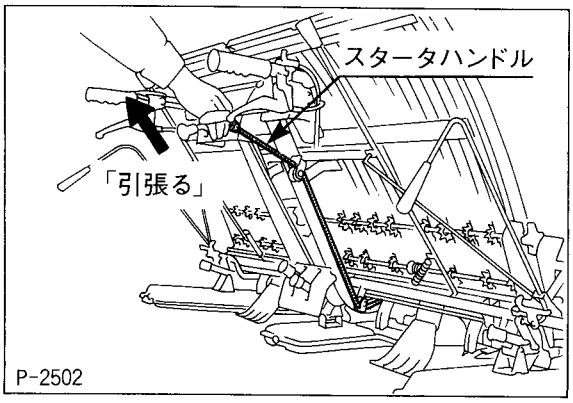
❹エンジンスイッチを「ON」の位置にします。
❺チョークを操作します。
＊エンジンが冷えているとき
→「全閉」
（「チョークノブ」を引く）
＊暖まった状態から再始動するとき
→「全開」又は「半開」
（「チョークノブ」を引かない
又は少し引く）



❻スロットルレバーを「低」と「高」の中間の位置に合せます。



❼スタータハンドルを引張ると，エンジンが始動します。



❽始動したら，エンジンの回転調子をみながらチョークを徐々に「全開」にします。(「チョークノブ」を戻す)

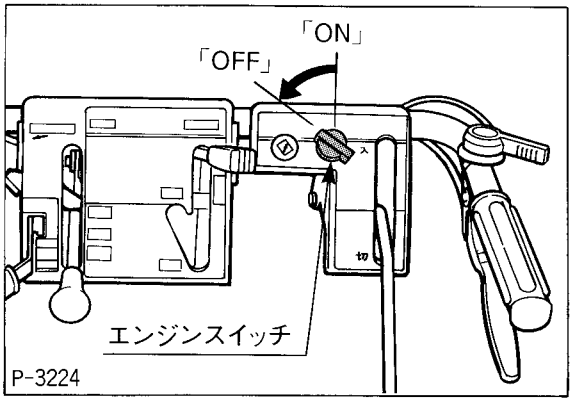
重　要

＊エンジンが始動しても急に高速にせず，5分程度暖機運転してから作業を始めてください。

■停止のしかた

❶スロットルレバーを「低」にして，3分ぐらい運転します。

❷エンジンスイッチを「OFF」の位置にします。



❸燃料コックレバーを「閉」にします。

重　要

＊エンジンを止めたら，燃料コックが完全に閉じているかを確認する習慣をつけましょう。

注　意

＊エンジン停止後，しばらくはマフラが高温になっていますので触れないようにしてください。また，本機カバーなどをかぶせないでください。

▶もし触れると…

ヤケドをすることがあります。

■ならし運転

田植機各部になじみをつけるために，10アールぐらい使用するまではエンジンを高速回転させたり，過酷な使用は避けてください。

移動走行のしかた

注　意

＊この機械は公道走行はできません。移動は，トラックなどにのせて運搬してください。

＊田植機のフロートが路面に当らないように，機体を上げた状態で走行してください。

＊苗のせ台を中央にして走行してください。

＊移動走行時は，苗を積まないようにしてください。

＊坂道では，絶対に変速しないでください。

＊移動走行時には，ローリングロックレバーを「路上」位置にして，機体を水平で固定してください。【SP-2HD】

＊走行時は，必ず左右マーカを収納して周囲の人の妨げにならないようにしてください。【SP-4】

■発進のしかた

❶エンジンを始動したら，スロットルレバーを「始」と「高」の間ぐらいに回してエンジン回転を少し上げます。

❷主変速レバーを「移動」位置にします。

❸油圧レバーで機体を「上昇」させた後，「固定」位置にします。

●機体を最上昇位置にするとローリングロックが働き，機体が水平で固定されます。【SP-4HD】

❹ローリングロックレバーを「路上」位置にします。【SP-2HD】

重　要

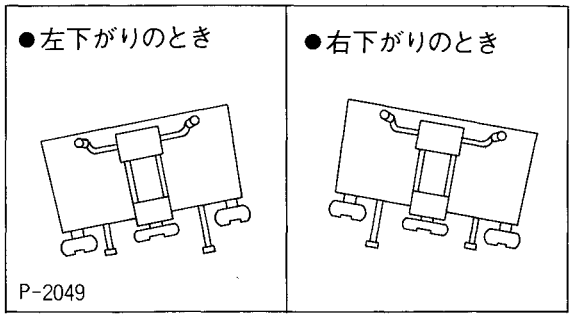
＊主変速レバーが「移動」・「後進」のときは，油圧レバーは必ず「固定」にしてください。

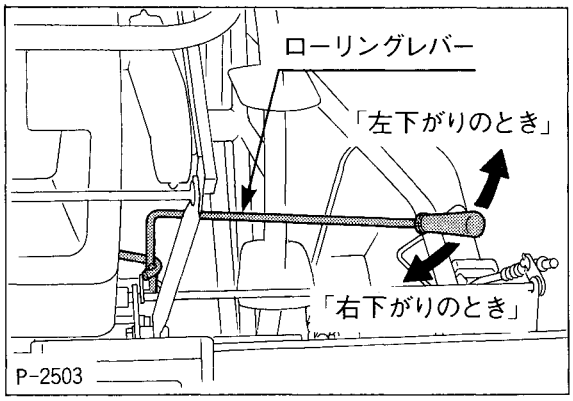
❺主クラッチレバーを「入」にすると，前進します。

注　意

＊レバーは，速やかに操作してください。

＊走行時，機体が傾いている場合は，ローリングレバーを操作して水平に戻してください。【SP-4HD】





■停車のしかた

注　意

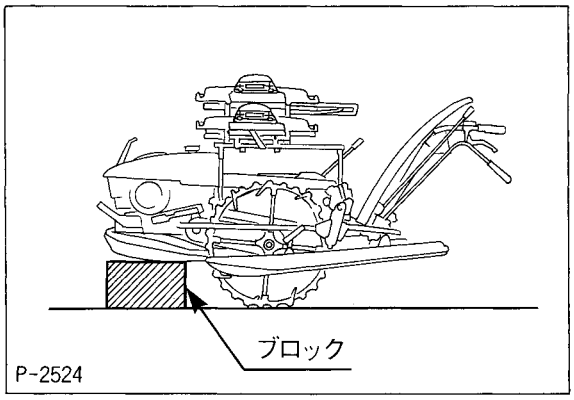
＊転落・転倒事故防止のため，機械は平坦で安定した場所で停車してください。

●スロットルレバーを「低」の方に回し，主クラッチを切ると停車します。

重　要

＊路上で植付け部を回すときは，センタフロートの先端（センサロッドの位置）の下部に厚さ10～15cmの箱又はブロックを置き，ハンドルを持上げて操作してください。

＊植付けクラッチを入れると機体が下がり，植付け爪が路面に当たって故障の原因になることがあります。



トラックなどへの積み込み・積降ろし

注　意

＊アユミ板は十分な強度と長さ，板幅（30cm以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

＊アユミ板のフックは荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。

■積込み・積降ろしのしかた

注　意

＊平坦な場所を選び，できるだけ助手の立合誘導のもとに行なってください。また，田植機の周囲に人を近づけないでください。

＊積込みは前進で，積降ろしは後進で行なってください。

＊アユミ板の途中では，絶対に主クラッチを切らないでください。
機体が急降下し，非常に危険です。

＊アユミ板の途中では，絶対に操向クラッチを操行しないでください。
機体が急旋回し，転倒して大事故につながります。

アユミ板の条件

長さ	車の荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
数量	２枚
強度	１枚が300kg以上の重量に耐えうるもの

❶マーカを収納し【SP-4】，ローリングロックレバーを「路上」位置にし【SP-2HD】，苗のせ台を機体中央にします。

❷機体を適当な高さまで上昇させ，固定します。

❸予備苗などの荷物は，事前に降ろしておいてください。

❹積込み時は，主変速レバーを「植付」，積降ろし時は「後進」で移動してください。

❺主クラッチレバーを「入」にし，機体が水平な状態のままゆっくりと積降ろしてください。

◆トラックなどで運搬する場合

油圧レバーを「下降」にして機体を下げ，機体が左右に傾かないように注意してください。

重　要

＊植付け深さレバーを，いちばん「深」にセットしてください。
＊予備苗のせ台には，ロープをかけないでください。
＊トラックの荷台からはみ出すような積み方は，絶対にやめてください。
＊マーカの操作レバーをハンドルにしばって，倒れないようにしてください。【SP-4】
＊フロートに無理な力をかけて，変形させないようにしてください。
＊ローリングロックレバーを「路上」位置にして，機体を水平で固定してください。【SP-2HD】
＊燃料コックレバーを「閉」にしてください。

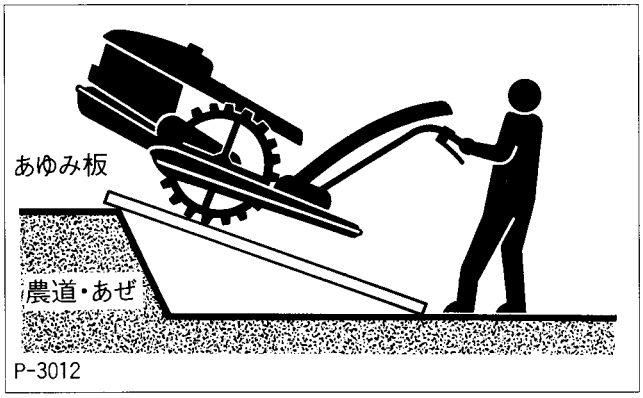
ほ場への出入り

注　意

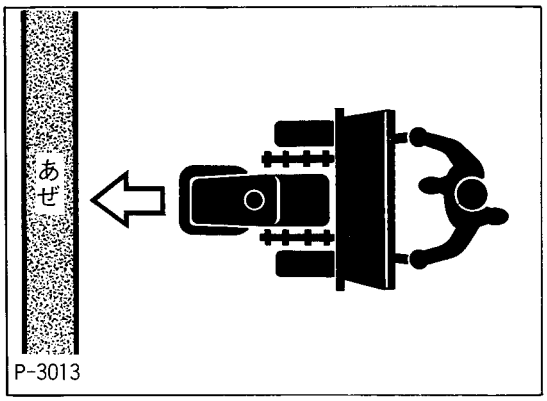
＊農道・あぜとほ場の高低差が大きいときは，アユミ板を使用して出入りしてください。
＊予備苗など田植え機に荷物を積んでの出入りは危険ですので，必ず荷物はおろして出入りしてください。
＊出入り途中で操向クラッチ操作は決して行なわないでください。

■ほ場への出入り・あぜごえのしかた

(1)必ずほ場・あぜに直角に進行してください。
(2)ほ場へ入るときは後進で，出るときは前進で行なってください。



P-3012



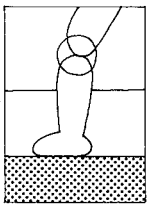
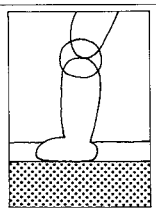
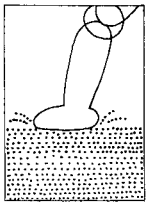
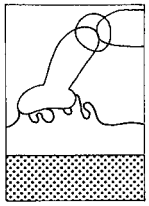
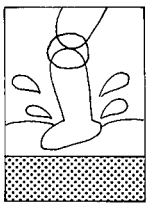
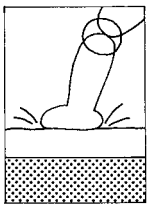
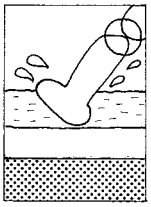
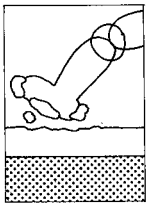
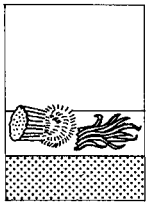
P-3013

上手な植付けのしかた

田植作業のほ場と苗の条件

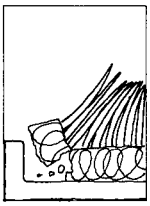
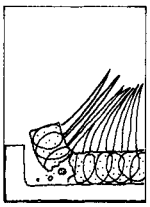
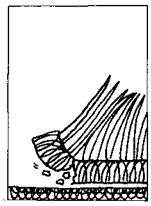
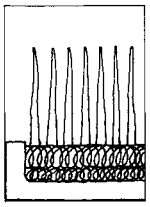
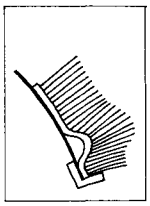
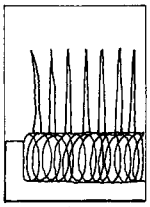
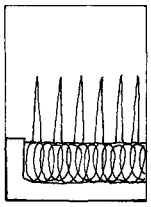
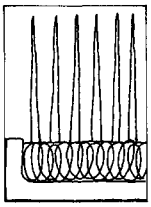
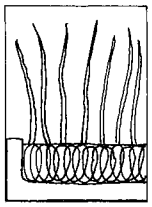
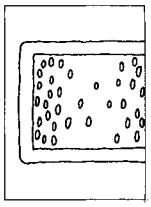
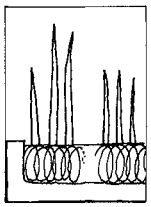
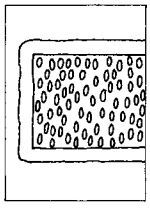
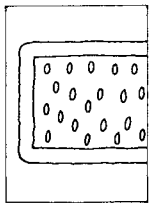
上手な植付けを行なうには，ほ場の条件，苗の条件が良くなければ出荷状態でうまく使えないことがあります。次のような条件が予想される場合は事前に販売店，又はＪＡ農協にご相談ください。

■ほ場条件

項　目	条　件(うまく使えないこともある状況)	
深　さ	 ①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土　質	 ①砂質の多いほ場(手植えでも植えにくいほどの硬いほ場)。	 ②強粘土質のほ場(歩くのが困難な粘いほ場)。
硬　さ	 ①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場(歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場)。	 ②代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場(手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場)。
水　深	 ①水深の平均が３cmを越える水の多いほ場。	 ②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで，刈り株・排ワラ又は雑草が十分腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

P-0280

■苗条件

項　目	条　件(うまく使えないこともある状況)			
苗　床		①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。		②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。
		③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。		④根の張り過ぎた，根付け爪のささりにくい苗。
		⑤苗床厚(マット厚)が2㎝以下の，薄い苗。		⑥苗床厚(マット厚)が4㎝以上の，厚い苗。
草　丈		①草丈が8㎝以下の，短い苗。		②草丈が20㎝以上の，長い苗。
素　質		①軟弱徒長苗。		②播種ムラのひどい苗。
		③成育ムラやハゲた部分のある苗。		
播種量		①催芽もみで，1箱当り250ｇ以上の，厚播きの苗。		②催芽もみで，1箱当り100ｇ以下の，薄播きの苗。

P-0280

育苗方法は各地区ごとに詳しい指針，指導要領がありますので，普及所や指導機関によくご相談ください。

田植作業前の準備

■株数の決定と調節

植付け株数は，株間調節つまみとギヤーを交換することによって選択してください。

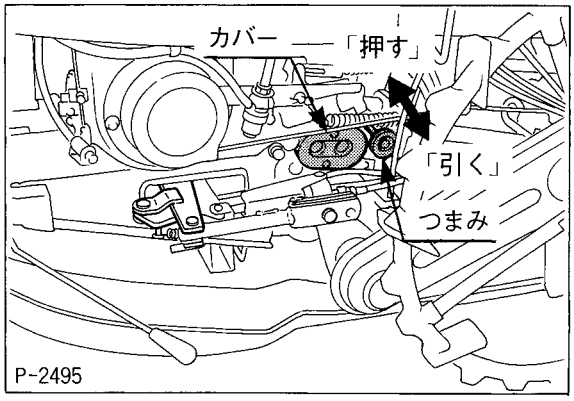
注　意

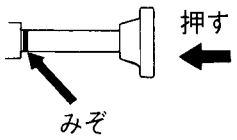
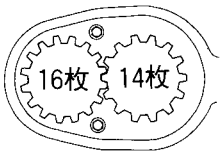
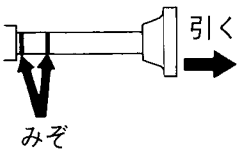
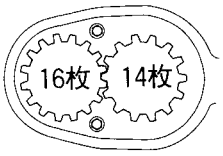
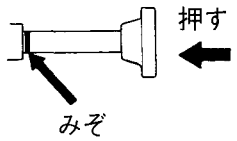
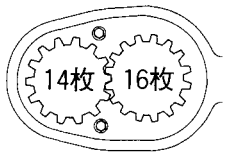
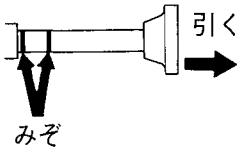
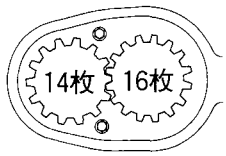
＊ギヤーの交換は，必ずエンジンを停止して行なってください。

重　要

＊株間調節つまみを操作するときは，次の要領で調節してください。

- 主変速レバーを「中立」
- エンジンを「低速」
- 油圧レバーを「固定」
- 主クラッチレバーを「入」



	株間調節つまみの位置	交換ギヤーの位置
90株（株間12cm）	 P-2017	 P-2018
80株（株間14cm）	 P-2017	 P-2018
70株（株間16cm）出荷位置	 P-2017	 P-2019
60株（株間18cm）	 P-2017	 P-2019

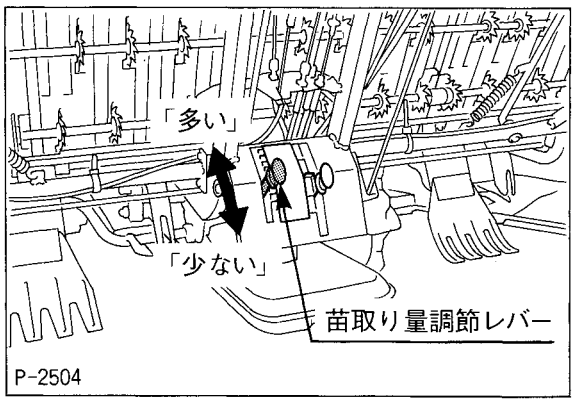
＊上記以外の株間用ギヤーは，オプション部品として準備しています。(42ページ参照)

■苗の使用量

10アール当りの苗の使用量は，栽植密度と１株の植付け本数によって決まります。次頁に示す表は，標準苗取り量の目安です。播種量は稚苗200～220ｇ，中苗100ｇを基準として算出してあります。

実際には，余裕をみて多めに準備してください。

また，苗取り量を変えると必要な箱数も変わってきます。

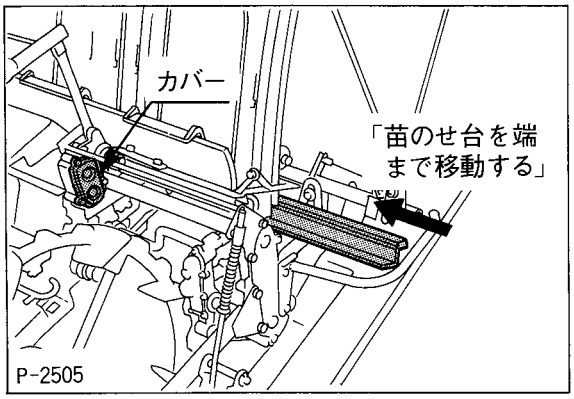


隣接条間(cm)	株間 12cm			株間 14cm			株間 16cm			株間 18cm		
	3.3㎡当りの植付け株数	10アール当りの所用苗箱数		3.3㎡当りの植付け株数	10アール当りの所用苗箱数		3.3㎡当りの植付け株数	10アール当りの所用苗箱数		3.3㎡当りの植付け株数	10アール当りの所用苗箱数	
		稚苗	中苗		稚苗	中苗		稚苗	中苗		稚苗	中苗
28	95	20	41	85	17	36	75	15	31	65	14	28
30	90	19	40	80	16	34	70	14	30	60	13	26
33	85	18	38	75	15	33	65	14	29	55	12	26

■横送り量の調節

苗の種類(稚苗・中苗)により苗のせ台の横送り量を切替えることができます。

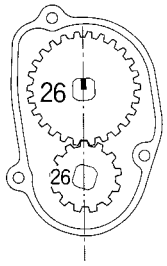
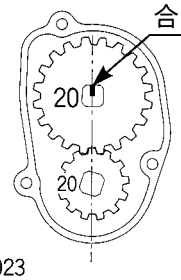
❶苗のせ台を右端又は左端に移動させます。



❷縦送り直後に植付けクラッチを切ります。
(端から1株目を取る直前)

❸エンジンを「停止」にします。

❹カバーを外し，植付け爪の先端が苗取り直前にあることを確認し，シャフトの合マークを下図の位置にしてギヤー2枚を同時に組替えてください。
(出荷時は26回取り用のギヤーをセットしています。)

26回取り(稚苗用)	20回取り(中苗用)
※出荷時	合マーク
	
P-2024	P-2023

補　足

＊出荷時は26回取り用のギヤーをセットしています。組替えるときは，付属部品の20回取り用のギヤーを使用してください。

❺カバーを取付けます。

重　要

◆誤まって切換えて，縦送りのタイミングがずれたときは次のように調節してください。

❶苗のせ台を右端又は左端に移動させます。

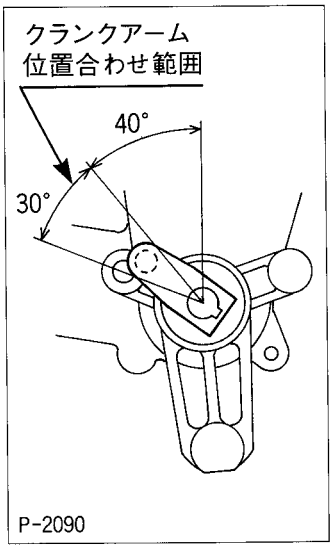
❷縦送り直後に主クラッチだけを切ります。

❸エンジンを止めます。

❹植付けアームを手で回してクランクアームを真上より40～70°遅らせた位置まで動かします。

❺カバーを外し，ギヤーを抜いてシャフトの合マークを上図の位置にしてギヤーを組付けます。

❻カバーを取付けます。



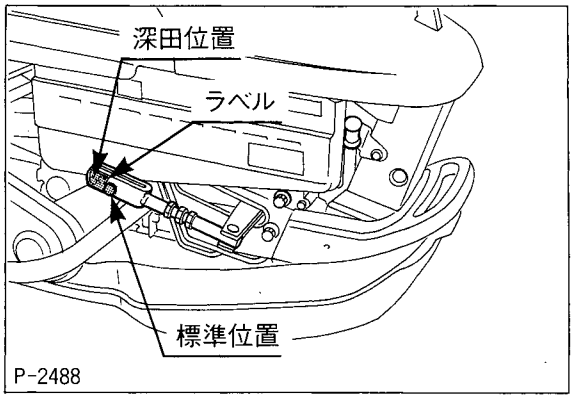
■車輪深さの調節

ほ場の深さに応じて車輪の深さ(下がり量)の調節ができます。

●車輪調節連結部の穴位置を，下記の耕深を目安に組替えてください。

標準位置……耕深5～30cm

深田位置……耕深18～40cm



●出荷時は標準位置にセットしています。

●穴位置を深田位置に変えるときは，ラベルをはがして，左右のロッド調節を同じ位置にセットしてください。

重　要

＊30cm以上のほ場で標準位置のまま使用すると，車輪がスリップして走れないことがあります。

◆調節方法

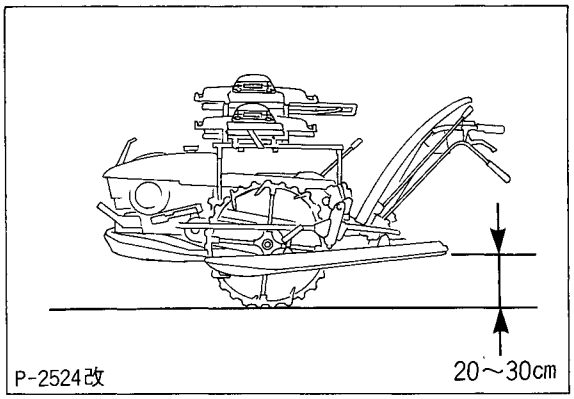
注　意

＊路面はできるだけ平たんな所で，２人作業を基本に行なってください。

＊本機には苗及び肥料は入れないでください。

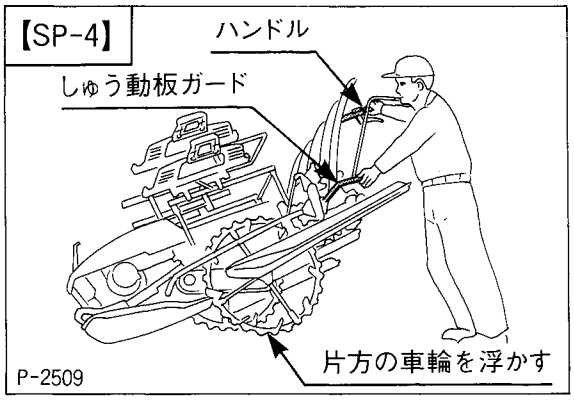
＊連結穴の変更のときは必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶主クラッチレバーは「切」の位置で，油圧レバーを「上昇」にして，機体を上昇させてフロートの高さが20～30cm位の高さでレバーを「固定」位置にしてください。



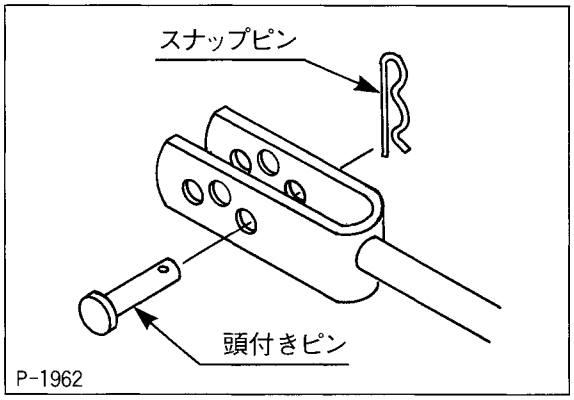
❷エンジンを「停止」にしてください。

❸一人が左側のハンドルを持上げて，左の車輪が地面より少し浮いた状態で支えておいてください。



❹もう一人が，車輪調節連結部のスナップピンを外し頭付きピンを抜いてください。

❺手で車輪を上下させて，希望の調節位置に，頭付きピンとスナップピンを組付けてください。



❻前記(❸～❺)と同じ要領で右側も同じ位置に頭付きピンを組替えてください。

(施肥装置付は穴が２箇所です。)

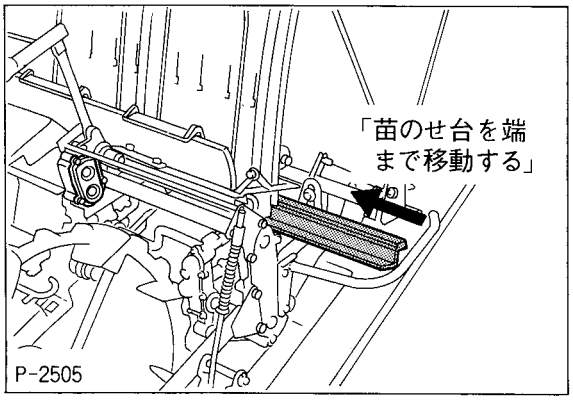
植付け作業のしかた

■植付け作業の順序と方法

❶ほ場に入って変速レバーを「中立」にします。

❷SP-2HDの場合は，ローリングロックレバーを「田んぼ」にします。

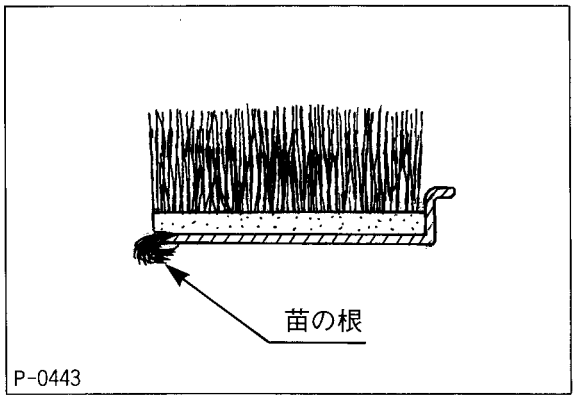
❸油圧レバーを「下降」，主クラッチレバー「入」，植付けSPレバーを「押して」苗のせ台を端まで移動させ，縦送り(ホイル)作動直後に油圧レバーを「固定」にし，主クラッチレバーを「切」にします。



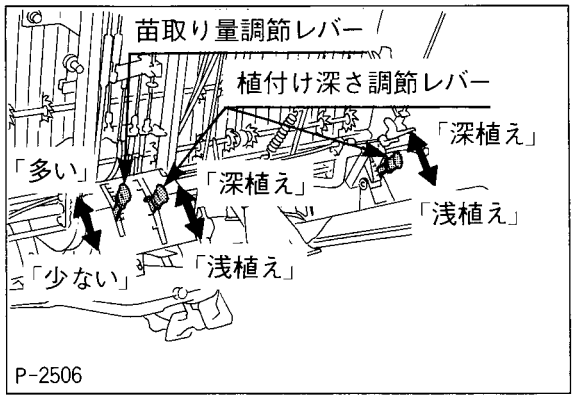
❹苗を苗のせ台にていねいにのせます。

重　要

＊苗すくい板の先端に苗の根がからみついて固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると欠株の原因になります。



❺植付け深さ調節レバー・苗取り量調節レバーを，希望する位置にセットしてください。



❻主変速レバーを「植付」位置にします。

❼油圧レバーを「下降」位置にします。

❽主クラッチレバーを「入」にすると，機械が動き始めます。

❾植付けSPレバーを「押す」と植付けが開始します。

❿SP-4の場合は，マーカを下ろします。

■ローリング機構【HD仕様】

左右の車輪位置の耕盤深さが異なっても，機体を常に水平に保つ装置がローリング装置です。
植付け作業中は，ローリング機構が働いて走行が安定します。

■安全クラッチ

注　意

＊安全クラッチが働いたら，すみやかに主クラッチレバーを「切」にし，エンジンを止めて，障害物を取除いてください。

(1)植付け作業中，植付け部が停止し，ガッガッと高い音がしたときは安全クラッチが働いています。

(2)安全クラッチが作動して，ガッガッと音がする状態で作業を続けると，爪が破損したり，安全クラッチが摩耗して作動しやすくなり，植付けミスが起こりやすくなります。

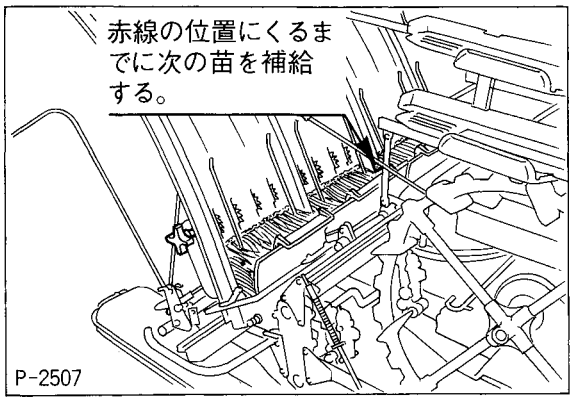
(3)障害物を取除いたあと，植付け爪が軽く回動するか，しゅう動板に当らないか，爪が曲がったり破損していないかを確認し，植付けを再開してください。
爪が曲がったり破損したときは交換してください。

補　足

＊爪を交換したら付属のゲージで苗取り量を合せてください。(合わせ方24ページ参照)

■苗の補給

苗のせ台の苗の残りが，赤線の位置にくるまでに苗を補給してください。

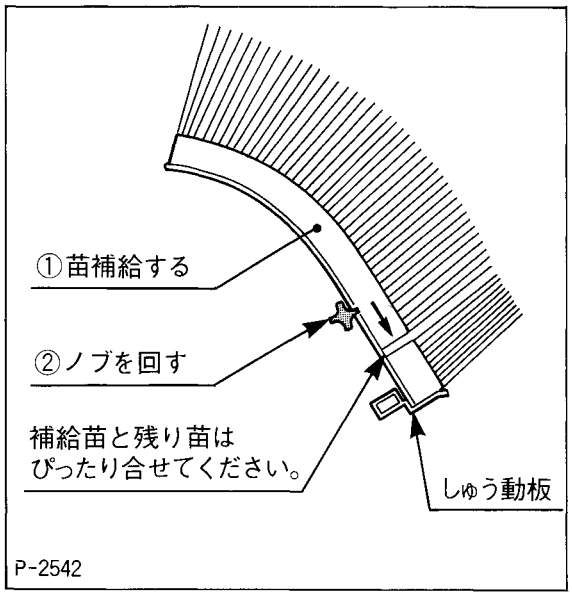


ほ場の長さを考えて，旋回のときに補給するようにしましょう。

(1)補給するときは，主クラッチを切ってください。

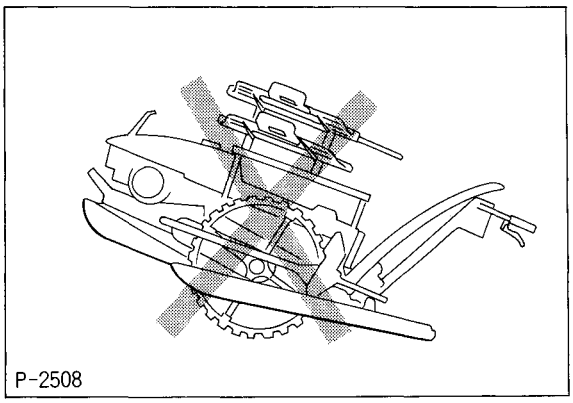
(2)補給するとき，苗のせ台を左右の端に移動させる必要はありません。
苗がまったく無いときだけ端に移動させます。

(3)補給苗はていねいに扱い，苗との境目がぴったり合うようにしてください。



注 意

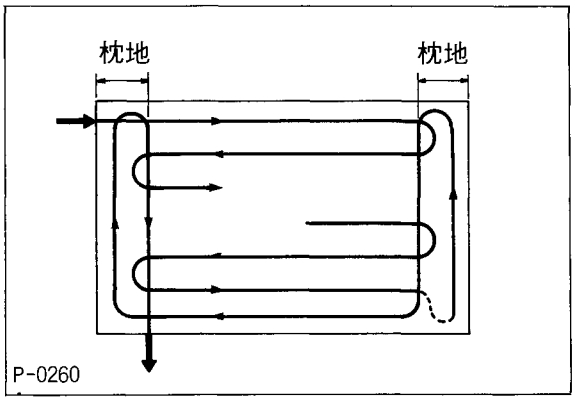
＊苗補給の際，機体を上昇させたあと後方に倒すような方法は危険ですので絶対に行なわないでください。



■枕地のとり方

❶枕地はあらかじめ(約１往復分)残して植付けます。

❷植え始めは，ほ場の長辺方向のあぜにまっすぐな側から植付けます。

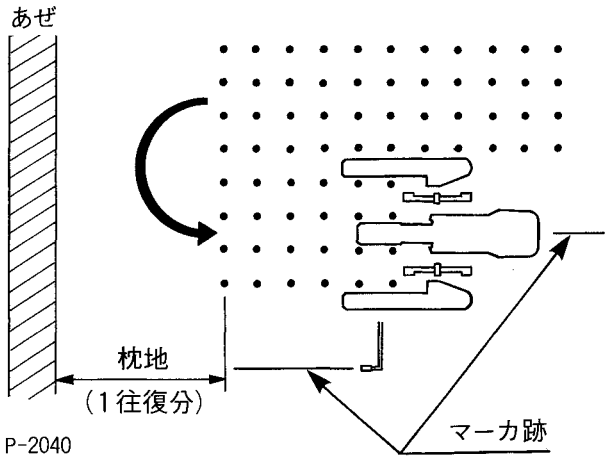


■旋回のしかたとマーカの使い方

❶エンジン回転を下げて，操向クラッチレバーを握れば，植付けクラッチも同時に切れます。(SP-4のマーカは自動的に収納します)

❷操向クラッチレバーを握ったままハンドルを持上げながら旋回します。

❸旋回が終れば，隣接条間が合うようにハンドルで操作してください。

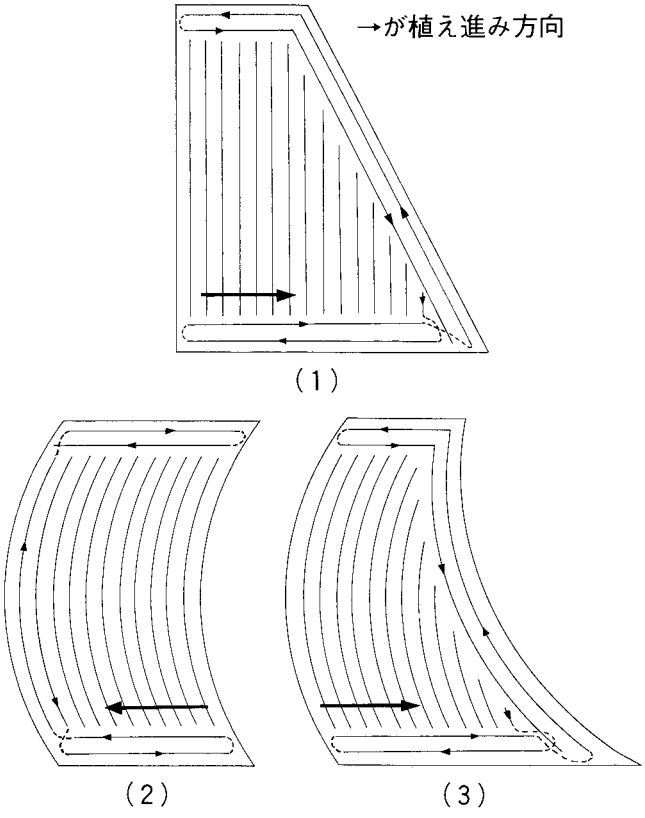


❹【SP-4】
植付けクラッチを「入」にして，マーカレバーを倒し，適切な作業速度で植付けてください。
【SP-2】
植付けクラッチを「入」にして，前マーカにそって適切な作業速度で植付けてください。

補　足

＊水が深すぎるとマーカ跡が見えにくくなりますので，１～２㎝のヒタヒタ水程度にしてください。
＊旋回時は，ボンネット先端のマスコットがマーカ跡に合うように旋回してください。　【SP-4】

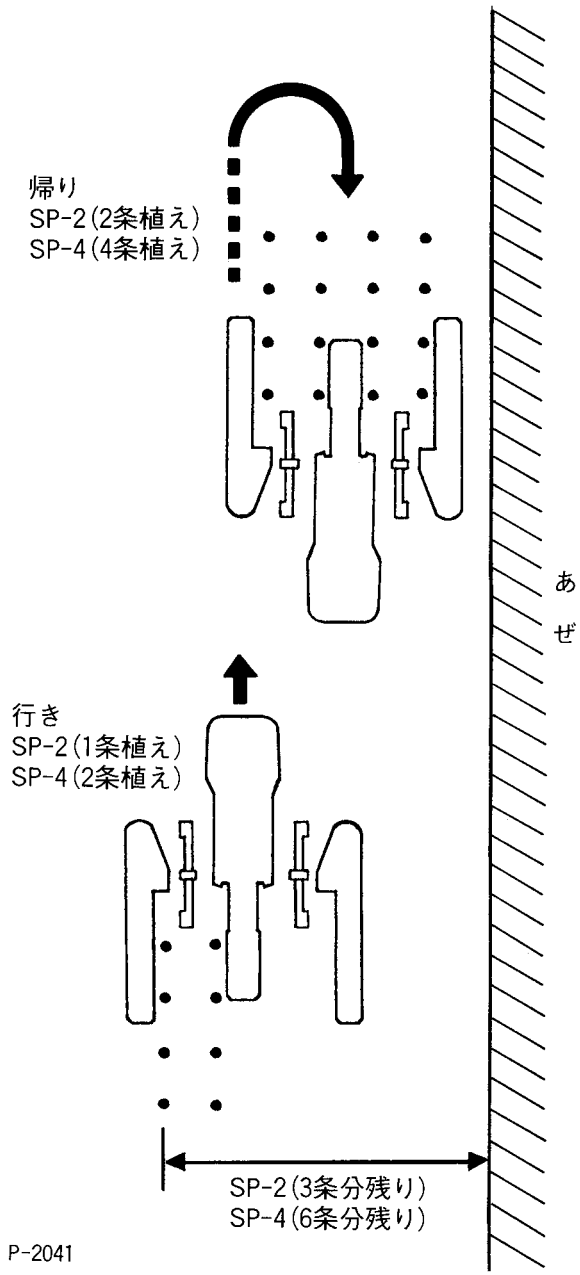
◆植え進み方向(下図参照)
(1)植え進み方向は，ほ場の長辺方向のあぜのまっすぐな側から植えます。
(2)両側のあぜが曲っているほ場では，内側から順に植えます。
(3)両側が曲った三角形のほ場では，曲りの少ない方から植えます。



P-0168

■あぜぎわの植付け

あぜぎわでの植付けは，最終の植付け条数を使用機械の条数に合せることが必要です。そのときは，苗ストッパを使って下図のような植付け方法で植付けてください。

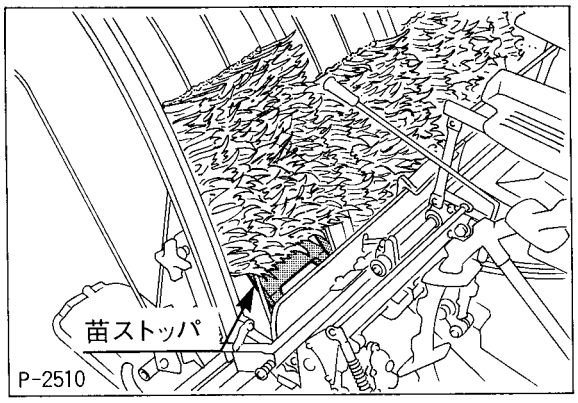


P-2041

◆苗ストッパの調節

苗を引上げて苗ストッパを下げ，苗ストッパに苗をのせると植付け部への苗供給が止まり，植付けが停止します。

あぜぎわを植付ける際に使用してください。



◆植付け水平調節【SP-2D】

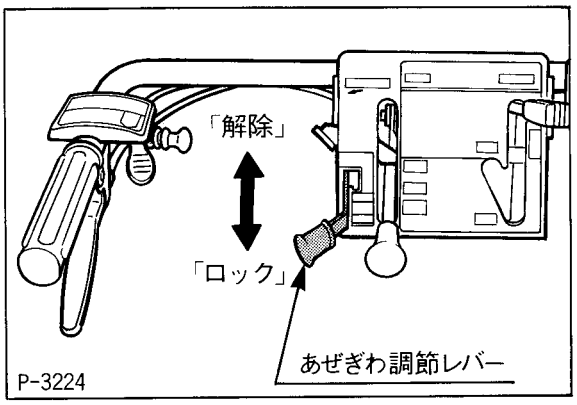
あぜぎわ植付けや機体が左右に傾くほ場では，次のようにあぜぎわ調節レバーで水平を調節しながら植付けてください。

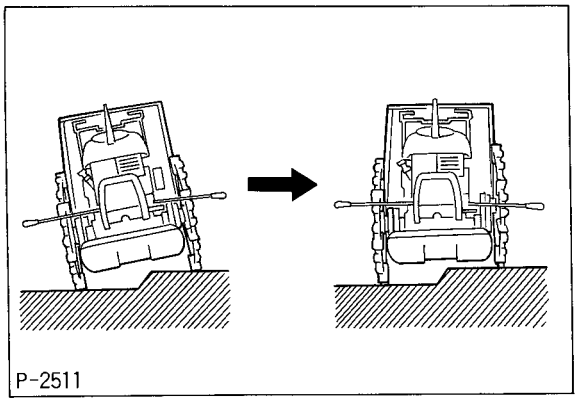
＊調節方法

❶あぜぎわ調節レバーを「解除」位置にします。

❷機体が水平になるよう，ハンドルで機体を傾けます。

❸あぜぎわ調節レバーを「ロック」位置に戻して，植付けます。





■植付け作業中の調節

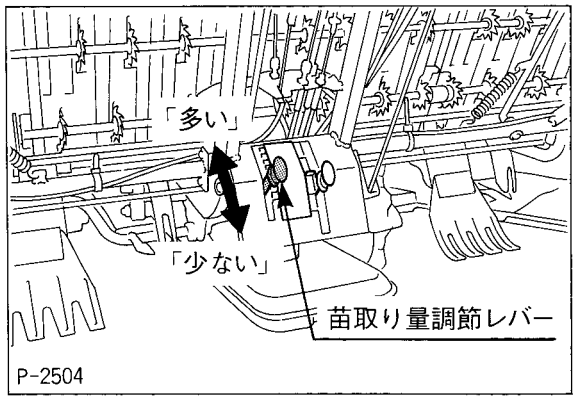
植付け作業を開始して植付け本数・植付け深さなどが希望どおりになっているかどうかをチェックし，希望どおりになっていなければそれぞれ調節してから連続植付けを行なってください。

◆苗取り量調節レバー

植付け本数の調節は，苗取り量調節レバーで行なってください。

「多い」……レバーを上方にセットすると，植付け本数が多くなります。

「少ない」……レバーを下方にセットすると，植付け本数が少なくなります。



◆植付け爪ごとの植付け本数調節

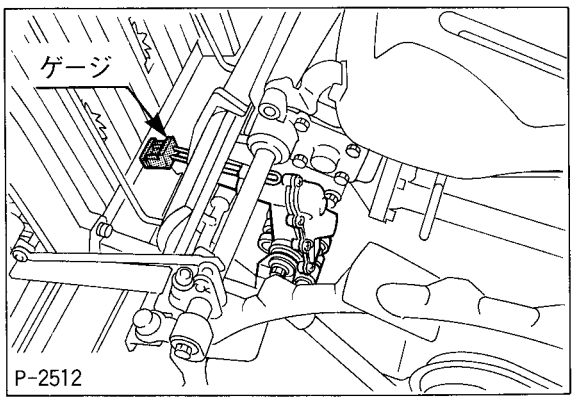
注　意

＊植付け本数調節時は，エンジンを必ず止めて行なってください。

(1)各条の植付け爪のうち，特定の爪の苗取り本数がいつも多いとか少ないとかの現象があれば，ゲージ合せをしてください。

ゲージ合せの結果，特に多い爪又は少ない爪があれば，連結軸の取付けナットをゆるめてボルトを回し，植付け爪が苗のせ台の中に入る量を調節してください。

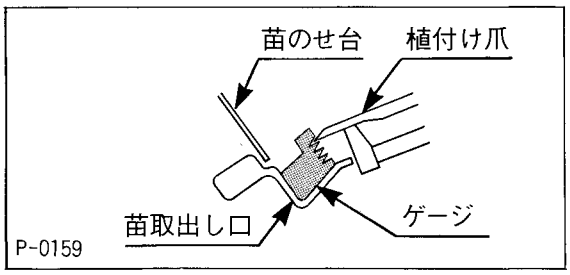
(2)植付けアームの爪取付けボルトが接触しないことを確認してください。

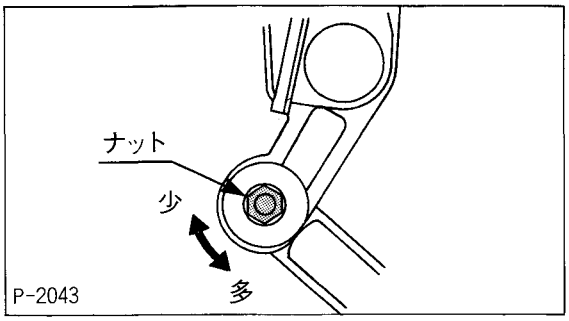


重　要

＊植付け本数は，育苗箱にまく種もみの量で決めるのが原則です。種まき時に十分検討してまき量を決めるようにし，たびたび種付け本数を調節することのないようにしてください。

＊最大取り量17㎜以上にしないようにしてください。苗取り量調節レバーを最も「多い」の位置にして，ゲージの一番上の溝に植付け爪先端を合せてください。



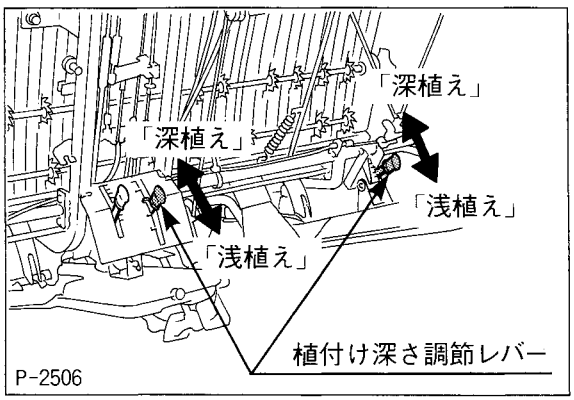


◆植付け深さ調節レバー

植付け深さの調節は，植付け深さ調節レバーで行なってください。

「深植え」……レバーを上方にセットすると深植えになります。

「浅植え」……レバーを下方にセットすると浅植えになります。



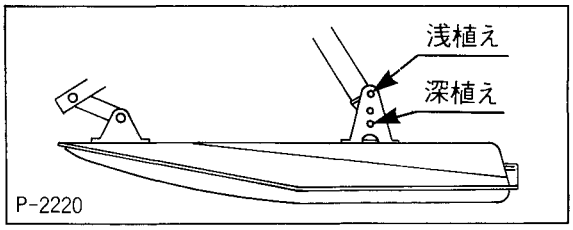
(1)植付け深さは，２～３㎝が標準です。

(2)草丈の長い苗は幾分深いめに，短い苗は浅いめに調節してください。

重　要

＊SP-4は３箇所のレバーを同じ位置に調節してください。

＊SP-2Sの場合は，ほ場条件(硬さ)に応じて後ろフロートのピン差し換えにより，植付け深さの調節範囲を広くできます。



◆耕うん，代かきが十分でないほ場

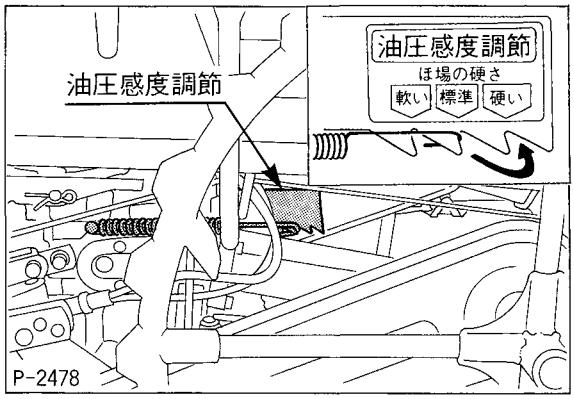
重　要

＊土塊のため良い植付けができませんので，耕うん，代かきはていねいに行なってください。

(1)茎の堅い健苗を使ってください。徒長苗は使わないでください。

(2)水深はできるだけ浅水にしてください。

(3)感知圧を高くし(油圧感度調節を「硬い」の位置にセットする)，整地を強くしてください。



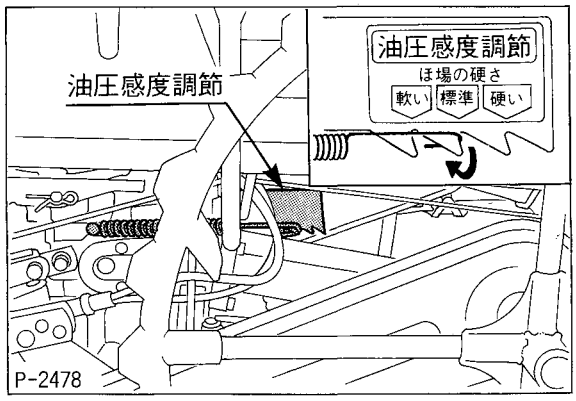
◆ほ場の表面が軟らかすぎる場合

(1)水を落とし，植付け日を延ばして表面を硬くしてください。

(2)前進速度を遅くします。

(3)やや深い目(３～４㎝)に植付けます。

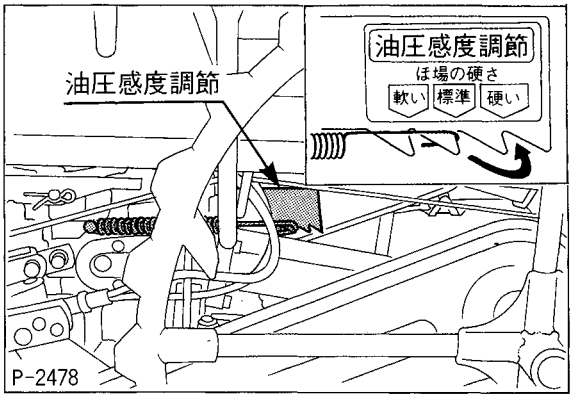
(4)感知圧を低くする。(油圧感度調節を「軟い」の位置にセットします)



◆ほ場の表面が硬すぎる場合

(1)表面を軽く代かきをして植えごろの硬さにしてください。

(2)感知圧を高くします。(油圧感度調節を「硬い」の位置にセットします)



■苗ステー

苗ステーは，苗床を軽く押えて苗の崩れ落ちを防止します。

次のような苗を使うときに使用してください。

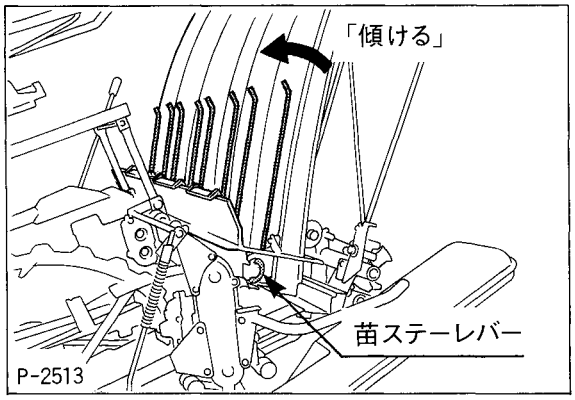
(1)根張りの悪い苗

(2)苗床が薄く，崩れやすい苗

◆苗の取出し

❶苗のせ台の苗ステーレバーを引き，上方に傾けますと苗の取出しが容易です。

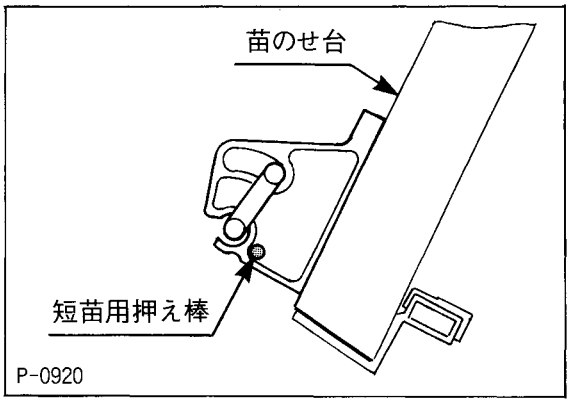
❷苗ストッパなど使用するときも同じ要領でお使いください。



◆短苗用押え棒(標準付属品)

植付け苗が10cm以下のときは，標準付属の短苗用押え棒をご使用ください。

同封の平座金を入れ，割ピンで抜けないように取付けます。



重 要

＊10cm以上の苗には使わないようにしてください。植付け不良の原因となります。

■苗ガイドの取外し方

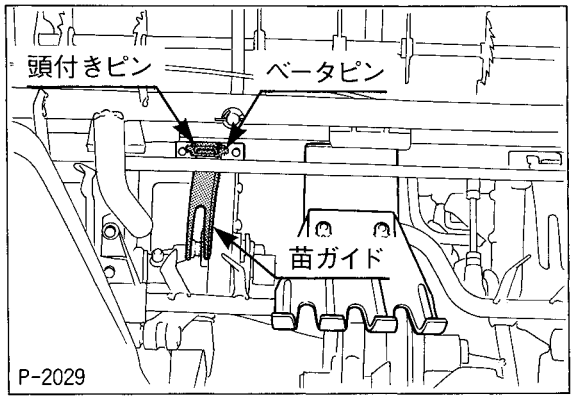
注 意

＊苗ガイドを取外すときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

苗が長く徒長ぎみのとき，苗ガイドを取外してお使いください。

❶ベータピンを外します。

❷頭付きピンを抜きます。



■ピタリックスアームの取外し方

注 意

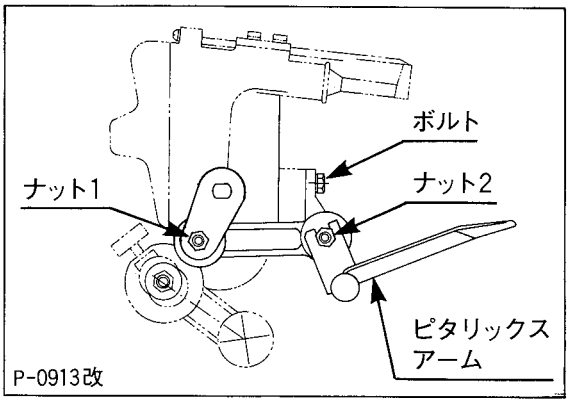
＊ピタリックスアームを取外すときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

深い水田や深水軟弱ほ場で使われると，ピタリックスアーム(土寄せ装置)が植付け姿勢を乱すことがあります。このようなときは，ピタリックスアームを取外してお使いください。

❶ナット１，ナット２をゆるめます。

❷ボルト左右４本を取外すとピタリックスアームが取外せます。

❸取外したボルト・ナットは大切に保管してください。

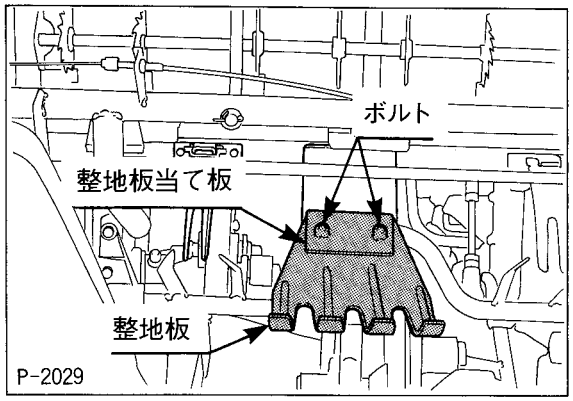


■整地板の調節【SP-4】

注 意

＊整地板を調節するときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

(1)比較的硬いほ場で車輪跡の凹凸が気になる場合は，整地板を「下げ」てお使いください。



(2)深田で軟かいほ場では，整地板を「上げ」てお使いください。

■植付けクラッチ連動解除の方法

操向クラッチを握って方向修正する場合，植付け部が止まり欠株が発生することがあります。

このようなときは，植付けクラッチとの連動を解除してお使いください。

注 意

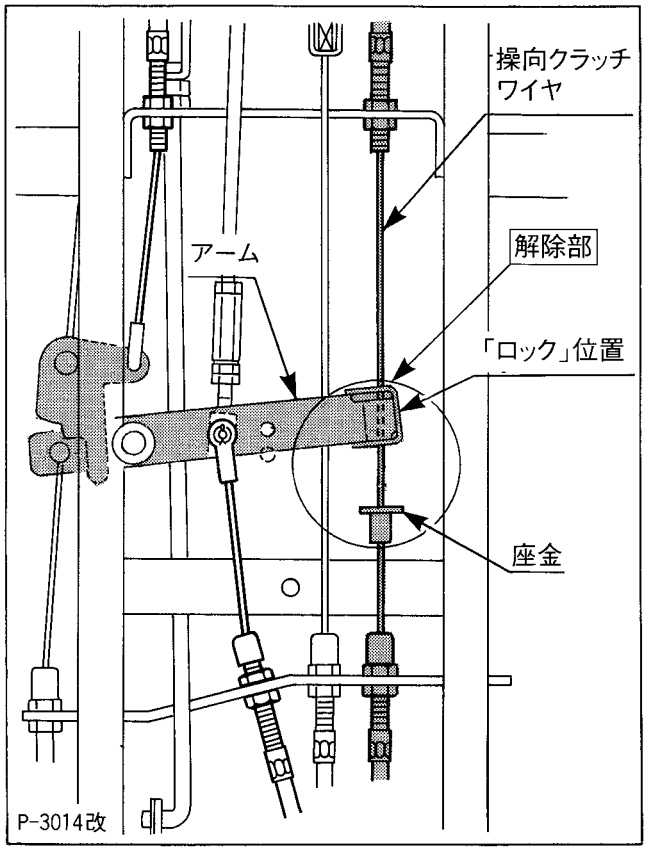
＊必ずエンジンを止めてから行なってください。

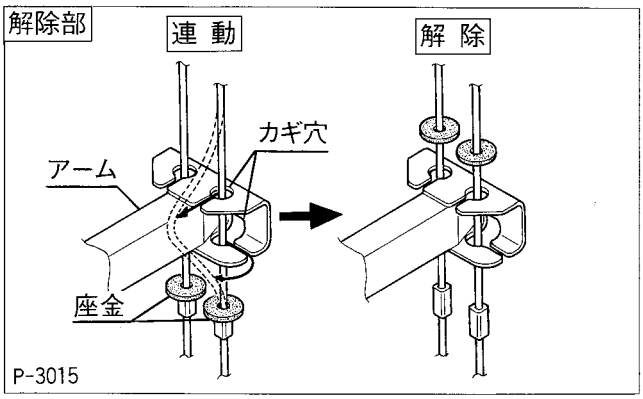
❶油圧レバーを「下降」にして，操向クラッチレバーを握りアームロックします。

❷操向クラッチワイヤをアームのカギ穴から外します。

❸座金をアーム上側に移動し，ワイヤのカギ穴に戻します。

❹２ヵ所とも解除します。





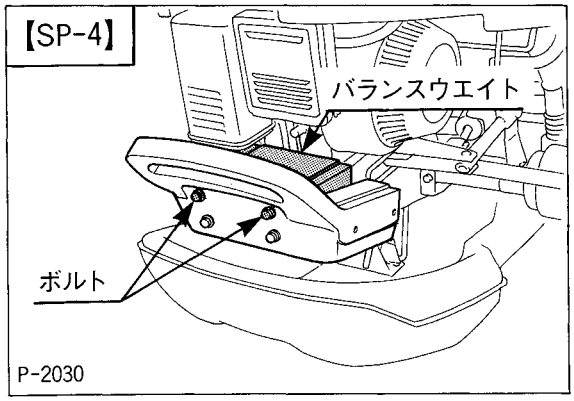
■バランスウエイト

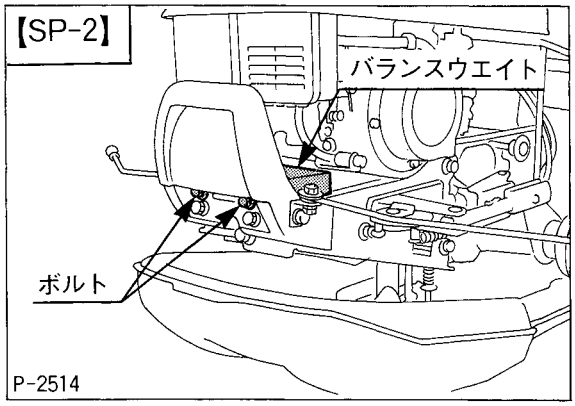
ほ場の条件によって，機体のバランスが変わることがあります。

＊バランスウエイトが必要な場合

(1)フロート後部が沈みやすく，フロートの跡が溝になるようなとき。

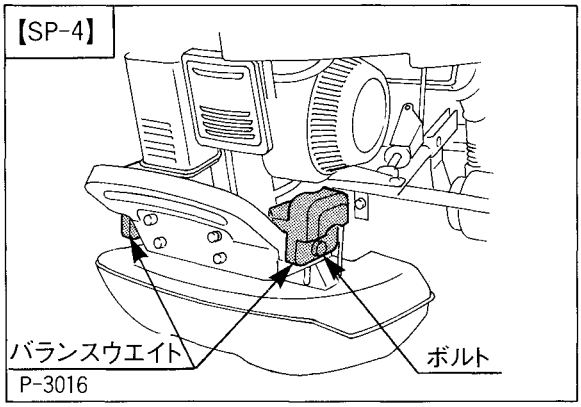
(2)ハンドルの手元荷重が重く，ハンドルを持上げて運転するようなとき。





【SP-2，SP-4】

品　　名	品　　番	数量	重量
ウエイトアッシ	41584-9310-0	1個	3kg/個



【SP-4】

品　　名	品　　番	数量	重量
ウエイト，キット	PC400-9360-0	2個	3kg/個

補　足

＊バランスウエイトは，仕様によってはオプション部品です。お近くの販売店にご注文ください。

＊注文されたバランスウエイトがないときは，エンジン先端部のプロテクター部に，3～5kg程度の重量物を載せて代替品としてください。

バランスウエイトがありますと，運転操作は非常に楽になります。

田植機の簡単な手入れと処置

各部の点検と交換

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・JA農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

定期点検表に従って必ず定期点検を実施してください。

注　意

＊給排油・点検整備時は必ずエンジンを停止してください。
＊作業中は火気厳禁です。
＊機械は平たんな場所におき，安全を確認してから行なってください。

■点検・注油・調整一覧表

○：点検補給　△：交換

	項　　目	毎作業前	20時間	50時間	100時間	備　　考	参照ページ
エンジン部	燃料	○					8，9
	エンジンオイルの点検	○	△	△	△	クボタ純オイルG30 又はG20	33
	パイプ・ホース類の点検					2年毎交換	34
	エアークリーナエレメントの清掃			○	○	50時間毎清掃	33
	スパークプラグの掃除					毎シーズン始め	29
走行部	ミッションオイルの点検			△	△	クボタ純オイル スーパーUDT	33
	クラッチの調整					毎シーズン始め	30,31
	チェーンケース	分解時にグリース補給				クボタスペアグリース (リチューム系)	販売店
植付け部	フィードケース	分解時にグリース補給				クボタスペアグリース (リチューム系)	販売店
	植付けケース	分解時にグリース補給					
	植付けアーム					毎シーズン始め クボタ純オイルM80B	29
	植付け爪の交換調整	爪の曲り，破損時交換調整					35
その他	各ワイヤの点検調整					毎シーズン始め	31,32

■ボンネットの開けかた

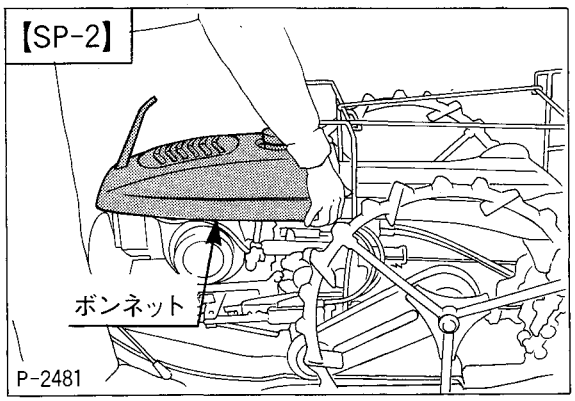
注　意

＊中に回転物・高温部があり，ケガをするおそれがあるので，点検・調整などでボンネットを取外すときは，エンジンを必ず止めてください。

＊点検・調整後はボンネットを必ず取付けてください。

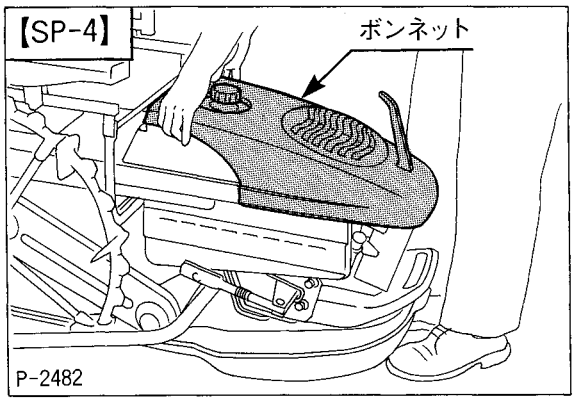
【SP-2】

ボンネットの後端を持ってゆっくり持上げてください。内部のはめ込みが外れて開きます。



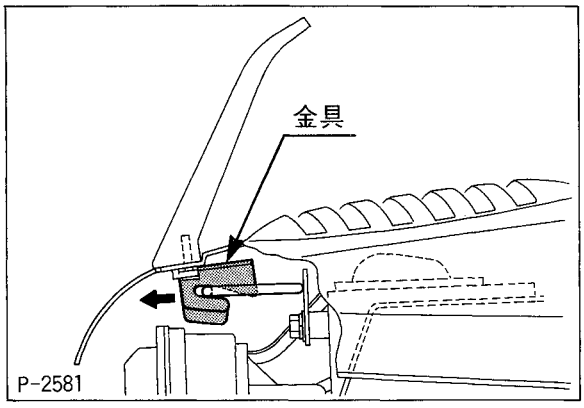
【SP-4】

ボンネットの後端を左右共外側に開いてください。



重　要

＊ボンネット前側の固定は，マスコット下の金具で前後スライドする構造となっています。
必ず後側を先に外してから前に引出してください。



作業シーズン前後のメンテナス

■スパークプラグのすきま

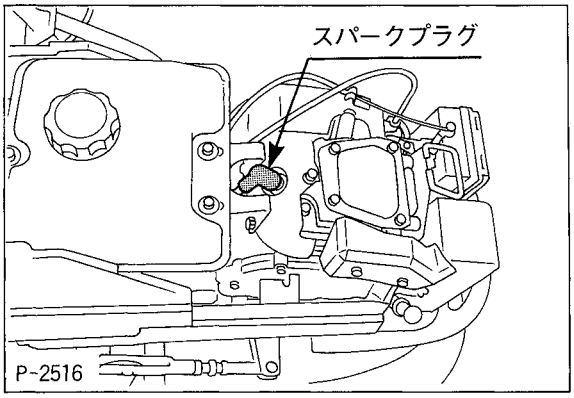
❶ボックススパナでスパークプラグを外してプラグに付着しているカーボンを取除き

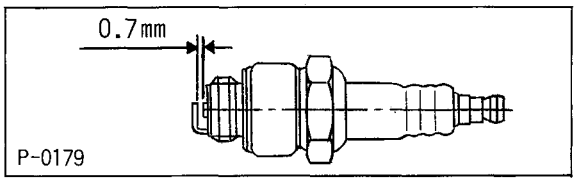
❷電極のすきまが0.7㎜になるよう調整してください。

使用プラグ	ND：W14FP-UL又は NGK：BP4HS
品　番	13979－6771－0

重　要

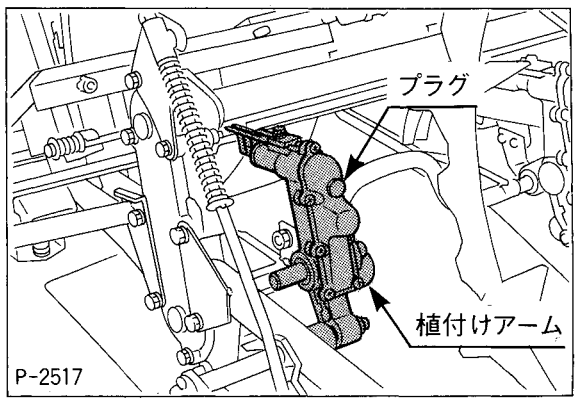
＊スパークプラグを取付けるときは最初手でねじ込み，その後ボックススパナで締付けてください。最初からボックススパナで締付けると，シリンダヘッドのねじをつぶしてしまうことがあるので，十分ご注意ください。





■オイルの補給

シーズン始めに植付けアーム１本当りクボタ純オイルM80Bを２cc補給してください。



各部の調整

注　意

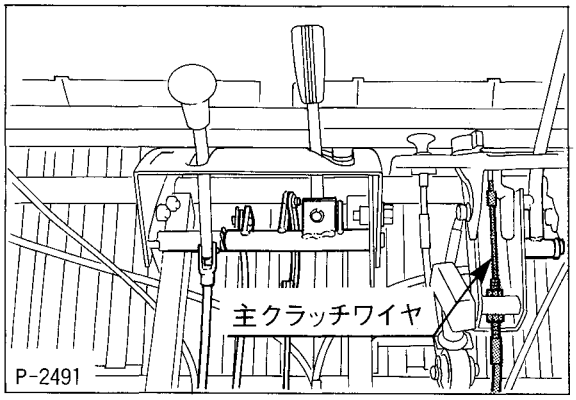
＊点検・調整するときは，必ずエンジンを停止してください。

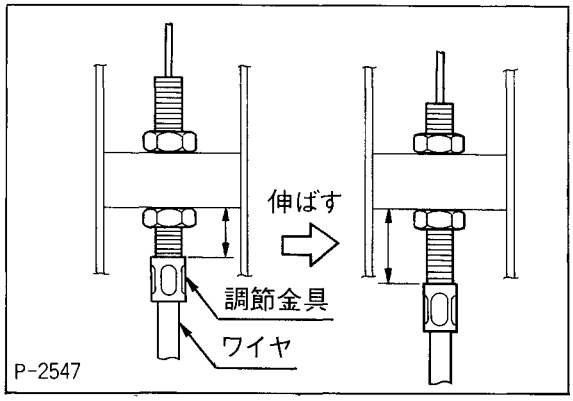
＊機械は平たんな場所に置き，特に植付け部を他の物に当てないよう注意してください。

■主クラッチの調整

主クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ，レバーを「入」にしたとき確実に動力が伝わるように調整してください。

調整は，主クラッチワイヤの調整金具を伸縮させて行なってください。

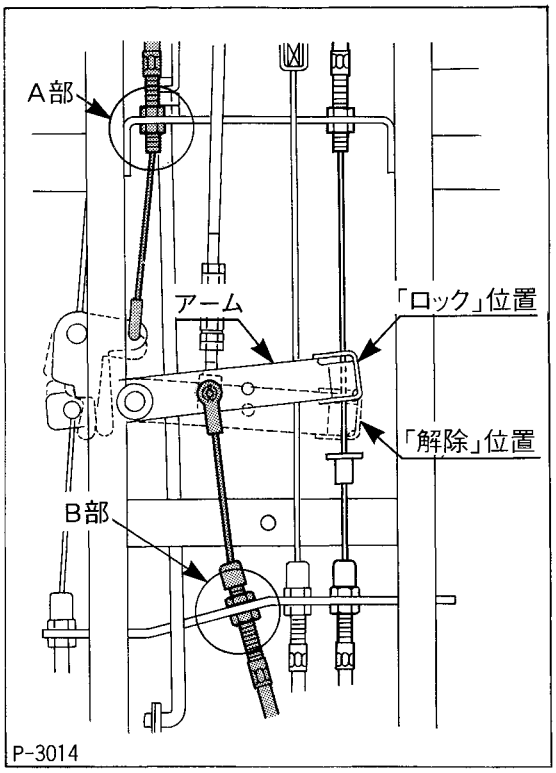




■SPクラッチの調整

油圧レバーを「下降」にして，操向クラッチレバーを握るとアームが「ロック」され，植付けSPレバーを押すとロックが解除されるように調整してください。

調整は，ワイヤの調整金具A部を伸縮させて行なってください。



■植付けクラッチの調整

❶油圧レバーを「固定」位置のとき，及び操向クラッチレバーを握ったときに，アームが「ロック」され植付けクラッチが切れることを確認してください。

❷油圧レバーを「下降」にして，植付けSPレバーを押して，アームのロックが解除されて，植付けクラッチが入ることを確認してください。

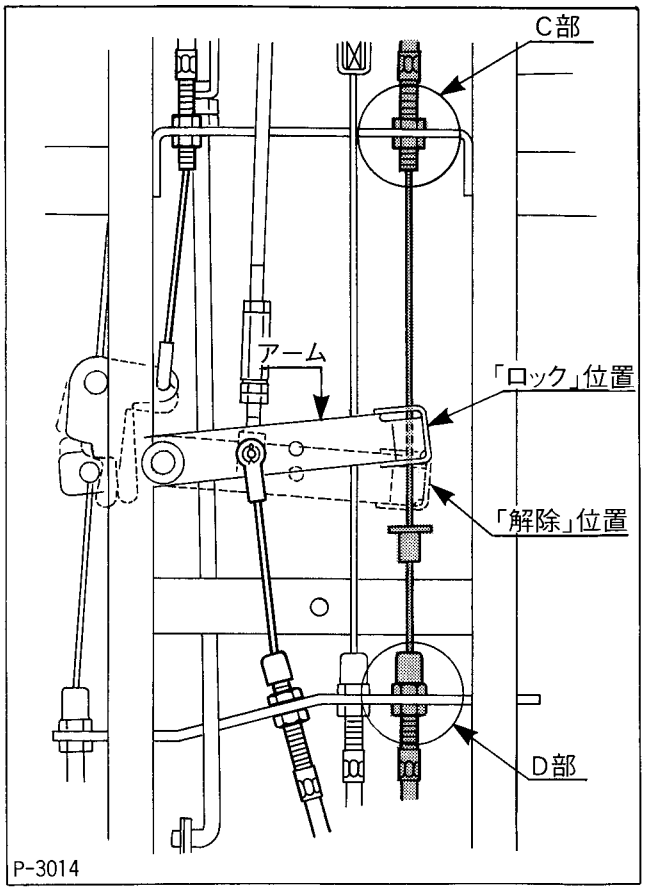
重　要

＊植付けクラッチが切れにくい場合には，調整金具B部の上側のナットをゆるめ，下側のナットをワイヤを張る方向へ回し，１回転ごとにクラッチの「入」「切」具合を確認してください。

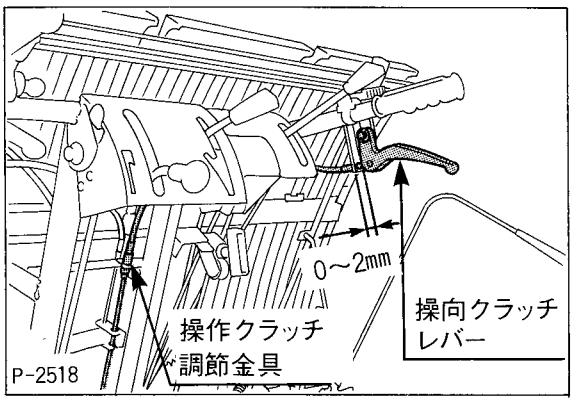
■操向クラッチの調整

❶操向クラッチレバーを握ってアームがロックされない場合は，調節金具C部の下側のナットをゆるめ，上側のナットを１回転ごとに調整し「ロック」することを確認してください。

❷アームが「ロック」位置で操向クラッチが切れにくいときは，調節金具D部の上側のナットをゆるめ，下側のナットを１回転ごとに調整してください。



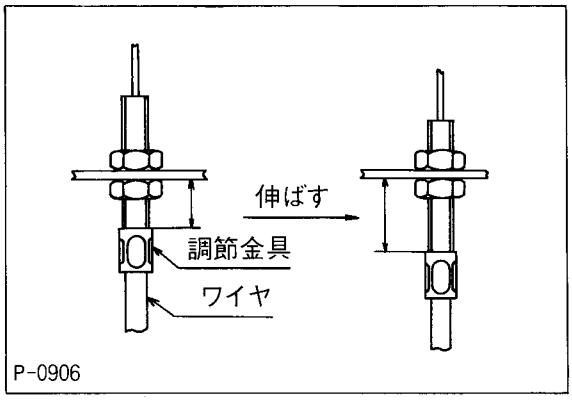
❸レバーの遊び「入」位置で０～２㎜程度に調整してください。



■油圧ワイヤの調整

❶油圧レバーを「固定」にしたのに機体が下がる場合は，油圧ワイヤの調節金具をワイヤが伸びる方向に調整してください。
ただし，油圧レバーが「下降」では機体が下がることを確認してください。

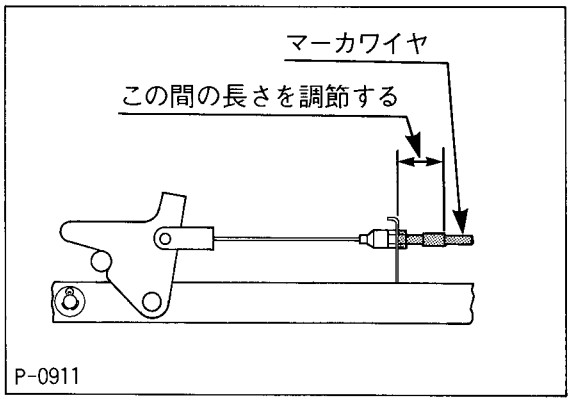
❷油圧レバーを「固定」にしたのに機体が上昇する場合は，油圧ワイヤの調節金具をワイヤが縮む方向に調整してください。
ただし，油圧レバーが「上昇」では機体が上昇することを確認してください。



■マーカワイヤの調整【SP-4】

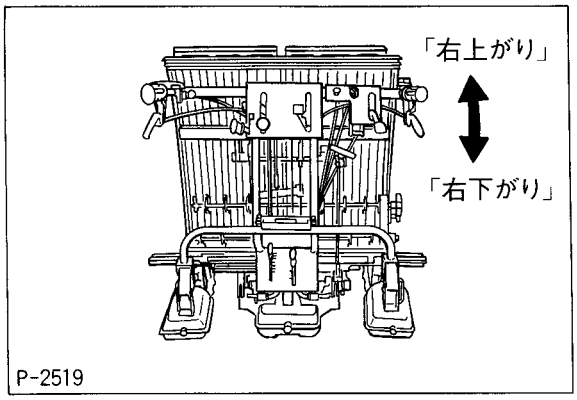
マーカ操作レバーを倒したときマーカが下がりすぎる場合，又は操向クラッチレバーを「切」，又は油圧レバーを「固定」～「上昇」にしたとき自動的に収納しない場合は，ロックナットをゆるめてマーカワイヤのアウタで調整してください。

＊下がりすぎる場合……右にねじ込んで短くする。
＊収納しないとき……左に回して長くする。



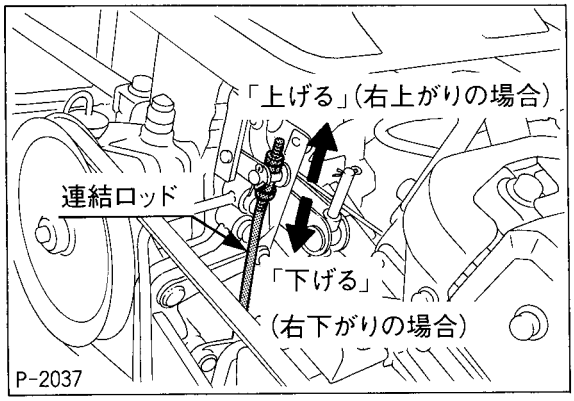
■ローリングの調整【SP-2HD・HDF, SP-4HD・HDF】

植付け中は自動的に油圧が働いて機体を水平に保ちますが，機体が左又は右に傾向的にかたむく場合には，水平になるように調整してください。



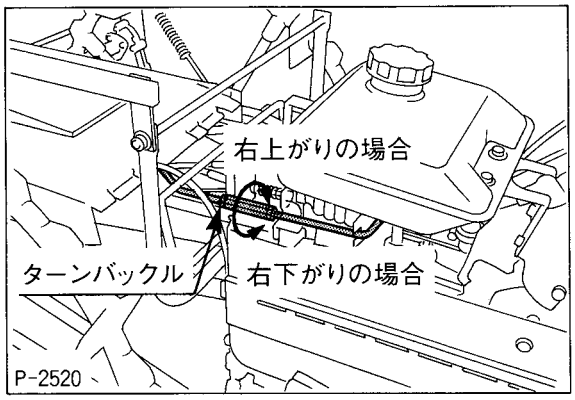
【SP-2HD・HDF】

エンジンが回っている状態で，路上などの平らなところに機体を置いたとき，機体がかたむいて，左右のハンドル高さが違う場合は，連結ロッドの長さを調整して，ハンドルが同じ高さになるようにしてください。



【SP-4HD・HDF】

試し植えをして，機体が水平になるようにターンバックルを調整してください。



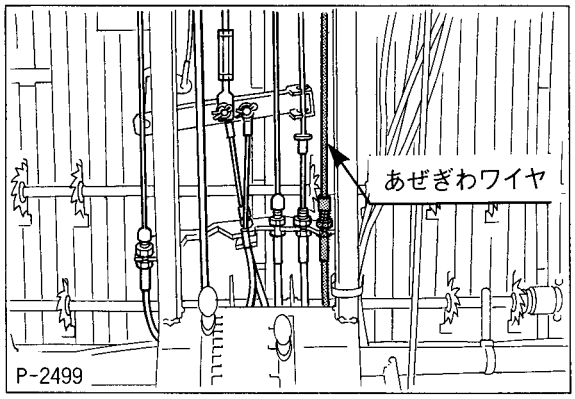
重　要

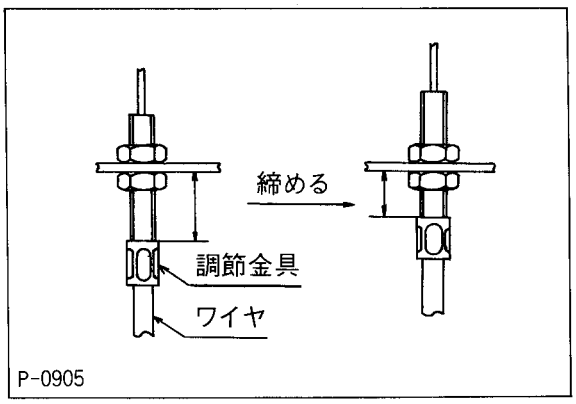
＊植付け深さ調整レバーは３ヵ所共，同じ位置に合わせてください。【SP-4】

■あせぎわワイヤの調整【SP-4D】

❶油圧レバーが「固定」で機体が固定しないとき，あせぎわワイヤが伸びる方向に調整してください。

❷油圧レバーが「下降」で機体が固定したままのとき，あせぎわワイヤが縮む方向に調整してください。





毎日作業前

■マフラ部の清掃

マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となり危険です。
毎日作業前に点検し，きれいに取除いてください。

次の項目は「作業前の点検について」(8ページ)を参照してください。

＊燃料
＊エンジオイル

20時間目

■エンジンオイルの点検

“50時間毎”の項目を参照してください。

50時間毎

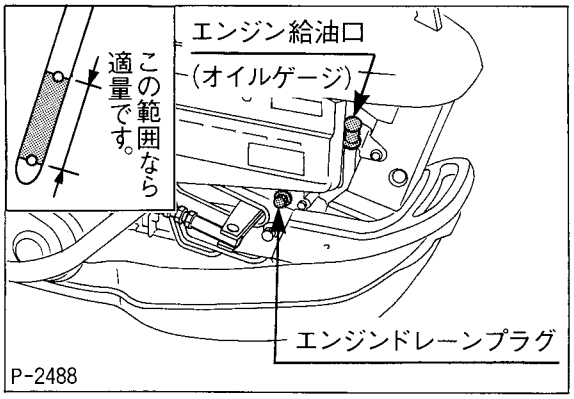
■エンジンオイルの交換

注　意

＊オイルを排出するときは，オイルが暖まっているのでヤケドをしないように注意してください。

◆オイルの排出

暖機運転してから先ず給油口のオイルゲージを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
エンジンを水平にして行なってください。

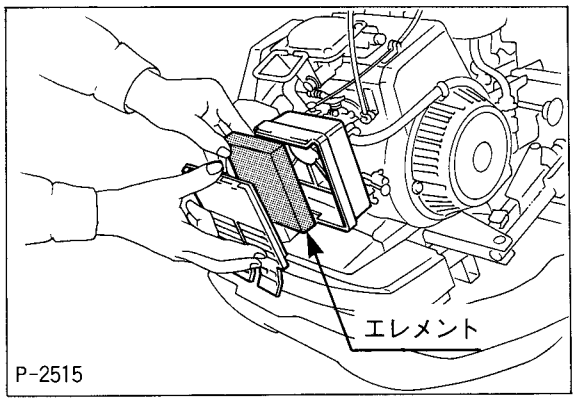


◆オイルの給油

ドレーンプラグを締付け，エンジンを水平にして給油口から適量給油し，オイルゲージをきちんと入れてください。

■エアークリーナエレメントの掃除

❶ウレタンエレメントを取出し，
❷エレメントを灯油か軽油でよく洗い，
❸エンジンオイルに浸して固く絞ってから，
❹元のように取付けてください。



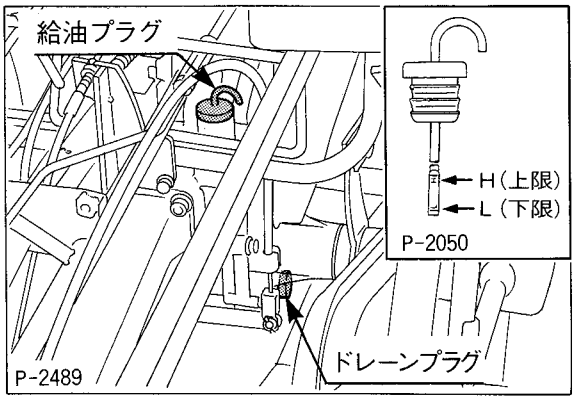
■ミッションオイルの交換

注　意

＊オイルを排出するときは，オイルが暖まっているのでヤケドをしないよう注意してください。

◆オイルの排出

暖機運転してからまず給油プラグを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



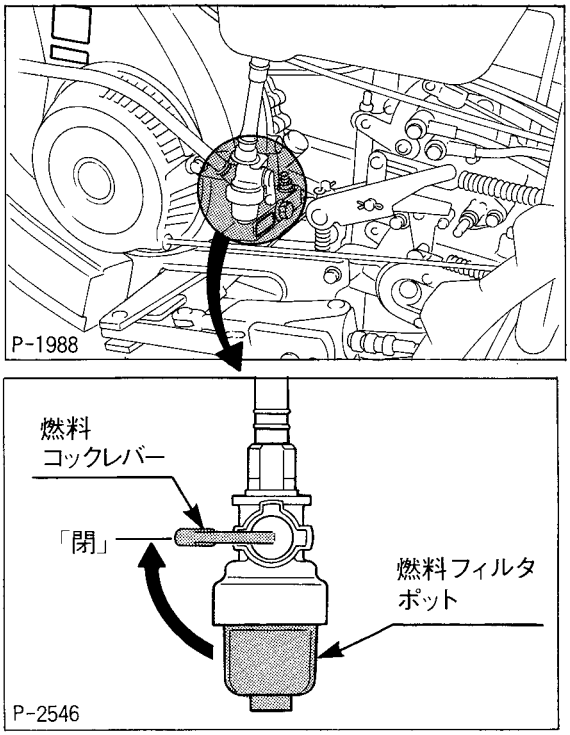
◆オイルの給油

ドレーンプラグを締付け，給油口から適量給油し，給油プラグを締付けてください。

100時間毎

■燃料フィルタポットの掃除

燃料コックレバーを「閉」にし，燃料フィルタポットを外して，ガソリンできれいに洗浄してください。



2年毎

■燃料パイプの点検

注　意

＊燃料パイプが傷んでいると燃料漏れを起し危険ですので，常に点検しましょう。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても老化します。締付けバンドと共に2年ごと又は傷んだときに新品と交換してください。

パイプ類や締付けバンドがゆるんだり傷んでいないか，常に注意してください。

都度の整備

■分解時にグリース補給

次の項目はクボタスペアグリース(リチューム系)を分解時，販売店に依頼して補給してください。

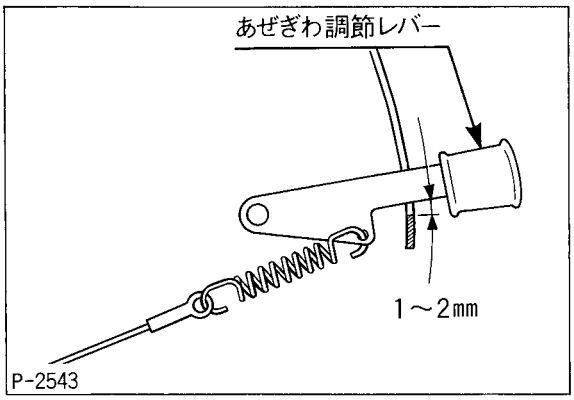
◆チェーンケース
◆フィードケース
◆植付けケース

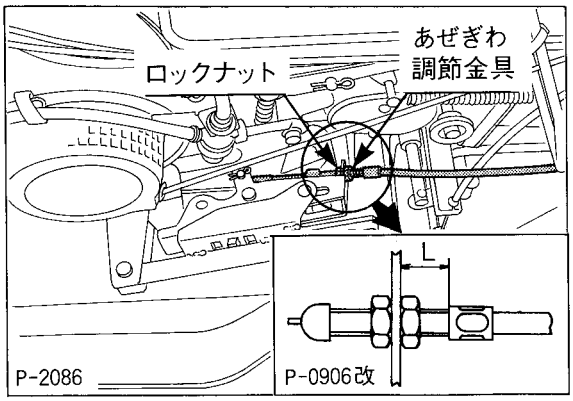
■あぜぎわ調節レバーの調整【SP-2D】

あぜぎわ調節レバーのロックピンが外れないときやロックされないときは，ロックナットをゆるめ調節金具で調整してください。

＊外れないとき……下記L寸法を長くする。
＊ロックされないとき……L寸法を短くする。

レバーの遊びは，「ロック」位置で1～2㎜程度に調整してください。





■植付け爪の交換

補　足

＊植付け爪，苗キーパは消耗品ですから，常に１セット予備として準備しておいてください。

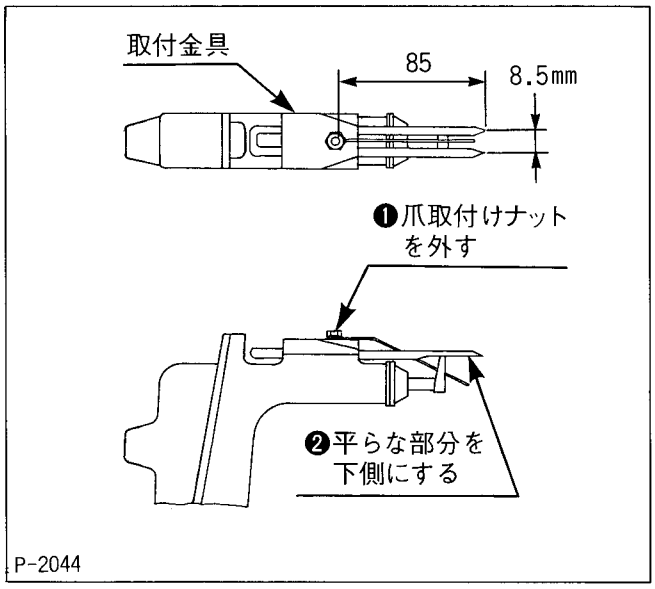
コードNo.	部品名称	数　量	
		SP-2	SP-4
41522-5121-0	ウエツケヅメ(K13)	2個/1台	4個/1台
41182-5123-0	ナエキーパ	2個/1台	4個/1台

植付け爪が摩耗すると植付け状態が悪くなるので，新しい爪と交換してください。

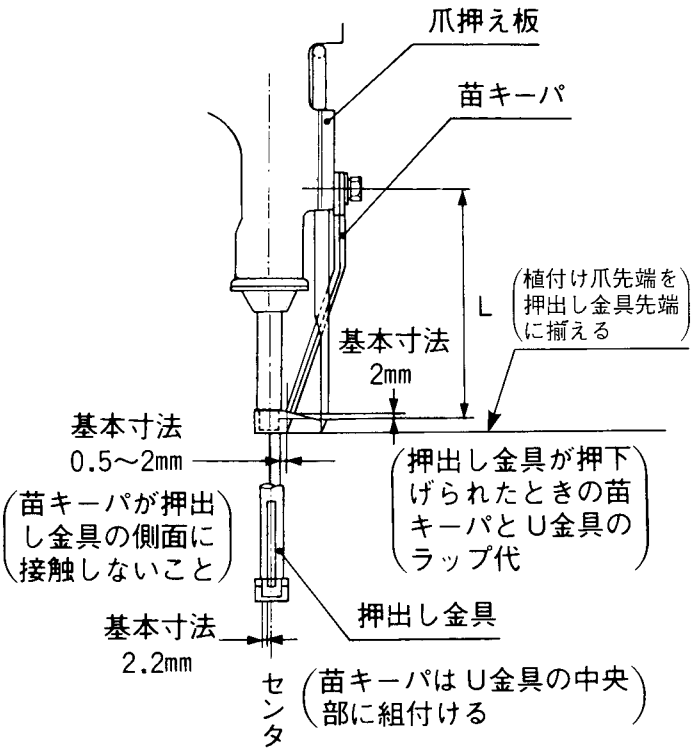
交換するときは，必ず苗キーパも同時に交換してください。

❶爪取付けナットを外して爪を外します。

❷爪先端の平らな部分を下側にし，爪の先端が押出し金具とそろうように取付け，ナットを確実に締付けてください。



P-2044



P-1597

長期格納時の手入れ

注　意

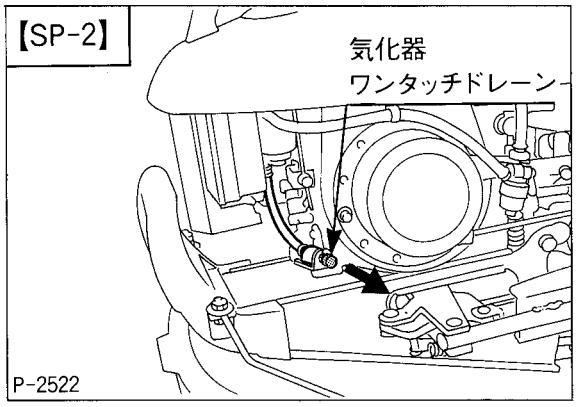
＊清掃する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊エンジンが過熱している間は，シートをかけないでください。火災の原因になります。
＊燃料抜取り時は火気厳禁。

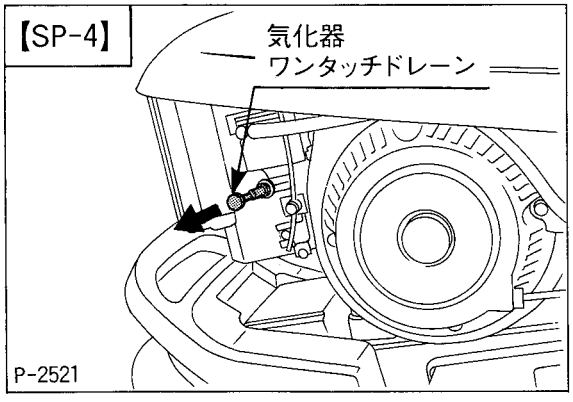
■使用後の手入れ

(1)各部に付いている土やゴミなどを洗い落し，水洗後は必ず水をふき取ってください。
(2)グリース塗付箇所にはグリースを，注油箇所には注油してください。
(3)植付け爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。
(4)各部のゆるみを調べ，増締めをしてください。

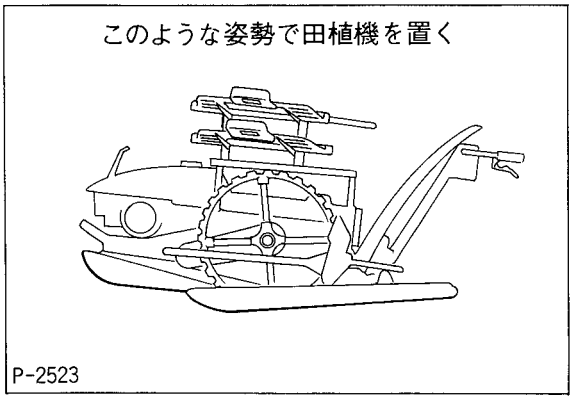
■長期格納時

(1)格納は，直射日光や雨の当らない風通しの良い場所を選んでください。
(2)燃料タンク・燃料コックのポット内のガソリンを抜取ってください。
(3)燃料コックを「閉」にして，気化器内のガソリンをワンタッチドレーンを引いて，完全に抜いてください。

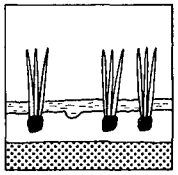
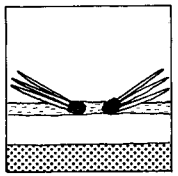
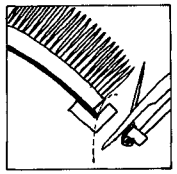




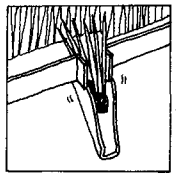
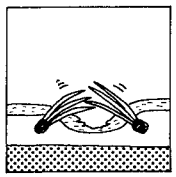
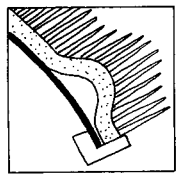
(4)植付け爪は苗取り直前の状態にし，植付け部は下げた状態にしてください。
(5)各クラッチレバーは「入」の状態にしておいてください。
(6)スロットルレバーは「低」の方へいっぱい回しておいてください。
(7)リコイルハンドルを引張って，圧縮の位置で止めておいてください。
(8)田植機を保管するときや放置するときは，油圧を下げ車輪を上げますと機体は安定します。
(油圧レバーを「下降」にして，機体は水平にしておきます。SP-2HDでは，ローリングロックレバーを「路上」にし，機体を固定します。)



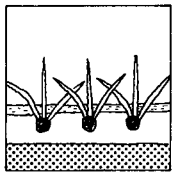
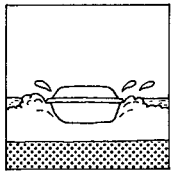
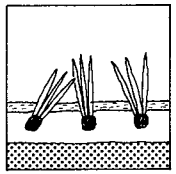
(9)フロートに無理な力をかけて，変形させないようにしてください。
(10)施肥装置付は作溝器部に無理な力がかからないようにしてください。
(11)手入れが済めば，必ず付属の田植機カバーをかけておいてください。

不調の内容	原　　因	処　　置
 欠株ができる。	ほ場 機械 浮き苗。 機械 苗 植付け爪が苗を取らない。 機械 苗 縦送りが悪い。	●各原因について，下記の不調の内容の当てはまる項目を参照。
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗にムラがある(播種ムラ)。	●ムラのない苗を使用する。
 浮き苗ができる。(苗が持上がる)	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	機械 植付け深さが浅過ぎる。	●植付け深さを深くする。
	機械 苗取り量が少ない。	●苗取り量を10㎜以上にする。
	ほ場 水が多過ぎる。	①水を少なくする。　②植付け速度を遅くする。
	ほ場 ほ場の土が軟らかい。	①ほ場を硬くする。　②植付け速度を遅くする。 ③植付け深さをやゝ深くする。
	苗 苗の根張りが悪い。	●根張りの良い苗を使う。
	苗 床土が砂質でバラけやすい。	●苗床に水分を与える。
	ほ場 ほ場の土が硬い。	●植付け速度を遅くする。
 植付け爪が苗を取らない，又は，苗取りが不十分。	機械 苗取り量が少ない。	●苗取り量を多くする。
	苗 播種量が少な過すぎる。	●苗取り量を多くする。
	苗 播種ムラ，生育ムラがある。	●苗取り量を多くする。
	苗 苗床が厚過ぎる。	●苗床の底面を切落とす。切れない苗は使用しない。
	機械 植付け爪の間隔が広(狭)過ぎる。	①爪間隔を確認する。(35ページ参照) ②新しい爪と交換する。
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗床が軟らか過ぎる。	●苗床を乾かす。
	機械 縦送りが悪い。	●不調の内容「縦送りが悪い」の項を参照。

P-0301

不調の内容	原　　因	処　　置
苗の縦送りが悪い。	苗 苗床の幅が広過ぎる。	●育苗箱の中で横方向に振動を与え，幅を狭くする。
	苗 苗床が厚過ぎる。	●苗床の底面を切落とす。切れない苗は使用しない。
	苗 根が張り過ぎている。	●苗床の下に伸びた根を切る。
 **苗取出し口に苗が溜まる。**	苗 苗床が軟らか過ぎ，苗を十分に取らない。	●苗床を乾かす。
	苗 苗床が軟らか過ぎたため，横送りによって苗床が変形している。	●苗床を乾かす。
	苗 苗床がバラけて，土がしゅう動板のしゅう動面に溜まる。	●苗床に水分を与える。
	機械 植付け爪の摩耗で，苗が十分取れない。	●新品と交換する。
	機械 植付け爪が２本そろっていない。	●新品と交換する。
	機械 植付け爪の間隔が広過ぎる。又は狭過ぎる。	●爪の間隔を確認する。（35ページ参照）
	苗 苗床の根が張り過ぎている。	●苗床の下に伸びた苗を切取る。
	苗 苗床が厚過ぎる。	●苗床の厚みが４cm以下の苗を使用する。
 **フロート通過跡に泥水が流れ込み，植付けた苗が倒れる。**	ほ場 ほ場の土が軟らか過ぎる。	①ほ場を硬くする。②バランスウエイトを使って，前バランスにして使う。
	ほ場 水が多過ぎる。	①水を少なくする。 ②植付けを速度を遅くする。 ③土寄せ装置を取外す。（特に不調のとき）
 **苗のせ台から苗がずり落ちる。**	苗 苗床が薄過ぎる。	●苗床の厚さが２cm以上の苗を使う。 ●苗ステーを苗床の厚さにあわせて調節する。
	苗 苗床が軟らか過ぎる。	●苗床を乾かす。

P-0301

不調の内容	原　　因	処　　置
 **植付けた苗がバラける。（まとまりが悪い）**	機械 押出し金具が苗を十分押出さない。	●押出しバネを交換する。
	機械 植付け爪の間隔が広過ぎる。	●爪の曲がりを伸ばし，間隔を確認する。 （35ページ参照）
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗床が乾き過ぎている。	●苗床に水分を与える。
	苗 苗の根張りが悪い。	①根張りのよい苗を使う。 ②植付け速度を遅くする。
	ほ場 ほ場が硬過ぎる。	●ほ場を軟らかくする。
	機械 植付け速度が速過ぎる。	●植付け速度を遅くする。
	機械 苗取り量が少な過ぎる。	●苗取り量を多くする。
	苗 根張りの悪い苗をぬらし過ぎている。	●苗床を乾かす。
	苗 苗と苗との合わせ目がぴったり合っていない。	●苗補給をていねいに行なう。
	機械 苗ガイドに土がつまっている。	●土を取除く。
 **フロートが泥を押す。**	ほ場 ほ場の土が軟らか過ぎる。	●ほ場を硬くする。
	機械 フロートの後部が沈み過ぎる。	●バランスウエイトを取付ける。
	機械 感知圧が高過ぎる。	●感知圧を調節する。
 **植付けた苗の姿勢が悪い。**	機械 押出し金具が苗を十分押出さない。	●バネを交換する。
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗の根張りが悪い。	●根張りのよい苗を使う。
ピッチングが発生する。	機械 感知圧が低く過ぎる。	●感知圧を調節する。

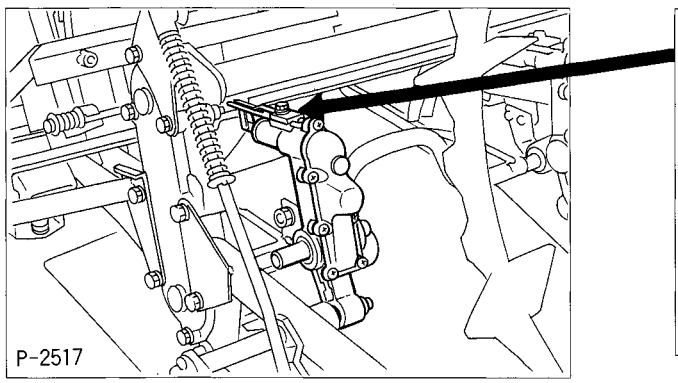
P-0301

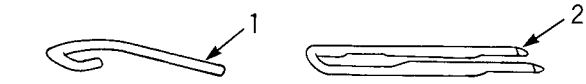
付　表

主要諸元

型式		SP-2			SP-4		
区分		D	HD	HDF	D	HD	HDF
機体寸法	全長(mm)	1900			2150		
	全幅(作業時)(mm)	880(1050)			1540(1980)		
	全高(mm)	920			970		
重量(kg)		87	89	97	139	144	164
エンジン	名称	クボタGH100-P-2			クボタGH120-P-2		
	形式	空冷4サイクルOHVエンジン					
	総排気量(cc)	98			121		
	出力／回転速度(PS／rpm)	2.3/1800(最大出力3.2)			2.8/1800(最大出力4.0)		
	使用燃料	自動車用レギュラガソリン(無鉛)					
	燃料タンク容量(ℓ)	2.1			2.7		
	点火方式	無接点式マグネト点火					
	始動方式	手元リコイルスタータ					
走行部	車輪調節	油圧式(上下)	油圧式(上下，ローリング)		油圧式(上下)	油圧式(上下，ローリング)	
	車輪 種類	ゴムラグ車輪					
	車輪 外径(mm)	620			660		
	変速段数(段)	前進2(植付1)・後退1					
植付部	植付条数(条)	2			4		
	植付条間(cm)	30					
	植付株間(cm)	12　14　16　18					
	植付株数(株/3.3m²)	90　80　70　60					
	植付深さ(cm)	1～4(5段)					
	一株本数調節方法	苗横送り(2段)及び，縦かき取り量(8～18mm)					
植付速度(m/秒)		0.3～0.6(スリップ率15%)					
路上走行速度(km/h)		4.5					
作業能率(分/10a)		58～			34～		
苗の条件	苗の種類	マット苗					
	草丈(cm)	10～25					
	葉令(葉)	2～4.5					
予備苗とう載数(箱)		2		1	4		
装備		——		施肥装置	——		施肥装置
安全鑑定番号		18025			18026		

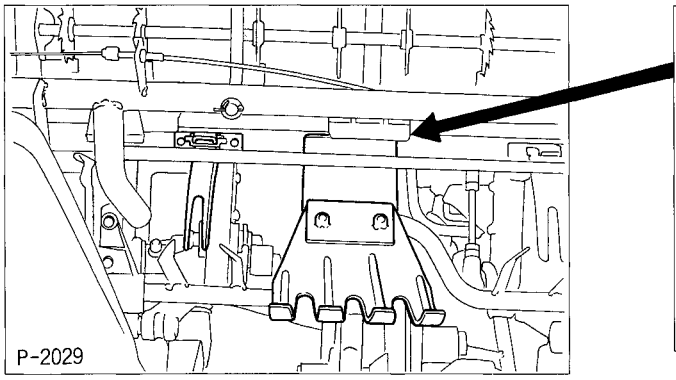
主な消耗部品一覧表

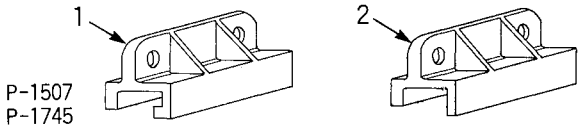




P-1911

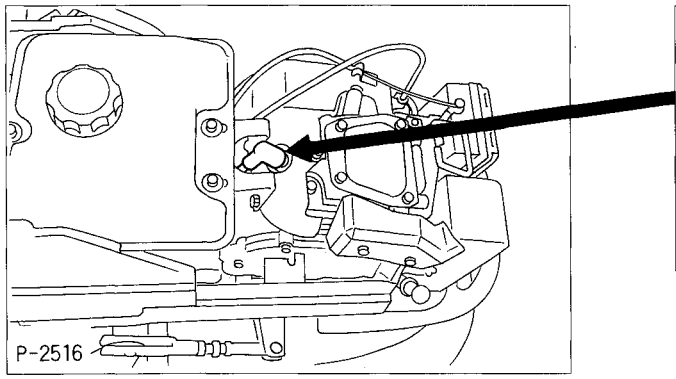
図番	品　名	品　番	個　数	
			SP-2	SP-4
1	ナエキーパ	41182-5123-0	2	4
2	ウエツケヅメ(K13)	41522-5121-0	2	4

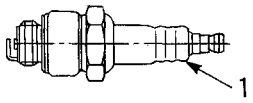




P-1507
P-1745

図番	品　名	品　番	個　数	
			SP-2	SP-4
1	ウケ 2	44366-4613-4	3	2
2	ウケ 3	45403-4614-0	—	2





P-0179

図番	品　名	品　番	個数
1	スパークプラグ	13979-6771-0	1

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

●保証書	1	●苗すくい板	1	●工具	
●取扱説明書	1	●ゲージ	1	17-21ボックススパナ	1
●ギヤ(13オクリ20)	1	●じょうご	1	⊕⊖ドライバ	1
●ギヤ(20オクリ20)	1	●車軸ピン	4	8-10スパナ	1
●植付け爪(K13)	2【SP-2】	●平座金 【SP-4】	4	12-14スパナ	1
	4【SP-4】	●スナップピン	4	14-17スパナ	1
		●苗おさえ	1	プライヤ	1
		●割ピン	1	12ソケットレンチ	1
		●平座金	2	ボックススパナ21【SP-4】	1
				工具袋	1
				本機カバー	1

オプション部品

品　番	品　名	適用機種		備　考
		SP-2	SP-4	
41522-9310-0	ギヤ，キット(カブマ20，24)	○	○	株間20cm，24cm
41522-9850-1	ウエツケヅメ，キット(I 13)	○	—	ステンレス板爪
41572-9850-1	ウエツケヅメ，キット(I 13)	—	○	ステンレス板爪
41584-9310-0	ウエイト，アツシ	○	○	ウエイト付仕様を除く
PC400-9360-0	ウエイト，キット	—	○	バランスウエイト(6 kg)
44411-9111-0	ナエスクイイタ	○	○	
41522-9320-0	ギヤ，キット(ヨコオクリ16，2)	○	—	横送り16回取り
41572-9320-0	ギヤ，キット(ヨコオクリ16，4)	—	○	横送り16回取り
41522-9330-0	ギヤ，キット(ヨコオクリ18)	○	○	横送り18回取り
41572-9100-0	ゴムシャリン，キット(T)	—	○	低反力車輪
PC200-9380-0	ランプ，アツシ	○	○	前照灯(乾電池式)
PC200-9100-0	ゴムシャリン，キット(Q)	○	—	ラグなし車輪
PC200-7210-0	セイチバン，アッシ	○	—	整地板

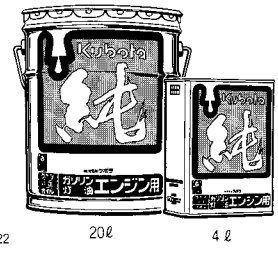
クボタ純正オイル

オイルはクボタ純オイルをお使いください。

●オイルは田植機の開発研究から生まれたクボタ純正オイルをお使いください。

■エンジンには

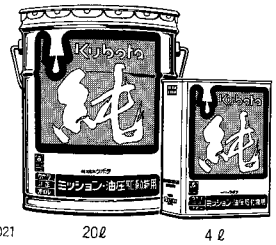
クボタ純オイル G30又はG20
ガソリン・灯油エンジン用



Z-1022　20ℓ　4ℓ

■田植機本体には

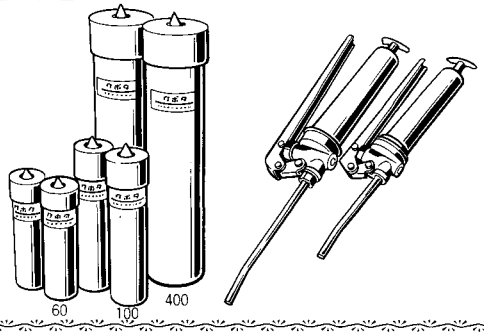
クボタ純オイル スーパーUDT
ミッション用



Z-1021　20ℓ　4ℓ

■グリースアップには

クボタスペアグリース



Z-1026　60　100　400

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
お買い求めは，販売店またはＪＡ農協にご用命ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011) 662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048) 862-1121	〒338-0832	浦和市西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(0722) 41-8506	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092) 606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘２丁目２番76号
株式会社クボタアグリ東日本		
秋田事業所：電(0188) 45-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事業所：電(022) 384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京事業所：電(048) 862-1124	〒338-0832	浦和市西堀５丁目２番36号
新潟事業所：電(025) 285-1261	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
株式会社クボタアグリ西日本		
金沢事業所：電(0762) 75-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-１
名古屋事業所：電(0586) 24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪事業所：電(0722) 41-8550	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子事業所：電(0859) 33-5011	〒683-0804	米子市米原７丁目１番１号
岡山事業所：電(086) 279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
高松事業所：電(0878) 74-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
株式会社クボタアグリ九州		
福岡事業所：電(092) 606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘２丁目２番76号
熊本事業所：電(096) 357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

品番　PC200―9151―2

Kubota